校正七都伝

中村俊定文庫
文庫 18
869

集古林

五

東京都立中央図書館
特別文庫

校七集

正部

発結　生死の日
曠野　法華古
猜義　異仏
隠猜義

附言

一 半紙本七部集先後二板あり小異あり共に印刻磨滅して讀得るし且近年刊行の坊本粗漏にして誤多しかるに今諸本を參考して校訂すれども猶疑を闕きの少からず

一 本書の内袖草紙幽蘭集附合集或ハ先輩の注釋本等を引合て異なるハ酌酌して改むるもの少からず

一 流布の印本なるに假字ハ改むるもの多く古假字ハ改む但方言里語の類ハ改めず

一 通例の合本篇次錯乱して今原書編集の年序を考へ改むる本文ハ左かなるの穿鑿ハ行ハず

一 今刻卷懐に便利なるを欲ひ毎篇目録を楮數の多さを厭ひ毎篇目録の所作者郷里等の如きあるもの樞用なるものを略ふけるもの

花鳥庵識

玉
丘
水
蕉
丘
分
蕉
玉
分
水
玉
丘
水
蕉
丘
分
蕉
水
玉
分
水
玉
丘

水
杜
玉
芭蕉
荷兮
東五
正平
玉
水
分
蕉
水
五
玉
分
水
玉
水
蕉
水

[illegible] 波の年人　也
[illegible]　蕉
[illegible]　路
[illegible]　五
[illegible]　兮
[illegible]　路
[illegible]　水
[illegible]　兮
[illegible]　蕉
[illegible]　水
[illegible]　也
[illegible]　蕉
[illegible]　路
[illegible]　也
[illegible]　兮

法花経の[illegible]

僧ふと十　歳　杜国

法[illegible]　重五
[illegible]　野水
[illegible]　芭蕉
[illegible]　荷兮

[illegible]　正平
[illegible]　五
[illegible]　路
[illegible]　蕉
[illegible]　水
[illegible]　路
[illegible]　兮
[illegible]　水
[illegible]　五
[illegible]　兮
[illegible]　蕉
[illegible]　五
[illegible]　路
[illegible]　蕉
[illegible]　水
[illegible]　路
[illegible]　兮
[illegible]　水
[illegible]　五
[illegible]　兮
[illegible]　五
[illegible]　路

五月雨の素八法し後の夢　蕉
枕閉て年ふる比の老の涙　水
高さ三尺程にして　玉
寒さ来る弘義を思ふ　分
彩雲きい物者に乾坤　水
ありひろめつもるに年月　丈
こと元庵ひものみ入　考
手代年の月代哉ゆかし　蕉

中ゝ世隆法仏のかゝ
おもゝすゝけられし
岸柳のおのゝ王子に来ぬ　分
ゆくの春を洗　蕉
ゆき辣馬寄の雲に咲ゝ　枯
春ゝ来ゝ夏の月翠ゝ　水
風吹の杉林の瀬　芭蕉
萩織ゝ笠代市に振す　四笠
数義門千駄藤武系微年　分
いまゝうの資寄ゝ　丈
思ゝ春橋寄ゝ　水
ゝきゝ来ゝ千代残ゝ　玉
枠出ゝ白鳥ゝ　笠
次ゝ武蔵ゝ人をゝん　蕉

雪丈

四季代菊に残るかりて落ゝ　丈
血かゝゝ月見ゝ　分
雪ゝて年ゝの残ゝ　玉
ゝまゝの細ゝた　水
おに巨ゝの懸ゝ捨ゝ　蕉
俗ゝのいゝ沢に教ゝを呑　笠
白蓮湯ゝ出に羽代法ひ　分
宮角かゝゝ叔を残ゝ　丈
八十年代ゝ尺ゝ幸毎ゝて　水
ゝゝ丸ゝ　玉
西南に今のおのゝかむき　笠
業のゝに上ゝ本ゝの書　蕉
彼の窓に潜ゝ安尼ゝ　丈
物義に栗を法ゝ書　分
年寿梅ゝ　玉
法ゝ角ゝ衣変の玄　水
宮代の月を飛法の系翠　蕉
ゝかゝき出系ゝ地　笠
いゝきて後ゝ知四人の係　分
尼にゝゝ法ゝ前の指　丈
御ゝ陵ゝ　水
持方の下に残ゝ変に　蕉
北の方ゝゝ芭蕉句ゝて　笠

四家眺望

荷兮

芭蕉　重五　杜国　湖笠　野水　蕉　兮　国　五　水　笠　蕉　兮　国　五　水　笠　蕉　兮　国　五　水　笠　蕉　兮

追加

湖笠　荷兮　重五　杜国　蕉　兮　国　五　水　笠　蕉　兮　国　五　水　笠　蕉　兮　国　五　水　笠　蕉　兮

五月六日 水無月

水無月の山の八重さくら　泄水
あり経や嶋の山の八重さくら　荷兮
手ひかれて人の稚子の桜　鶴人
水流れ水流れ水流れ　羽笠
ひすがら雨に降るぬるる社の榊　執筆
桜に降る雨のうつたるつまるつ月　水
蓑のうつたるつまるつ月　素
笠着て太秦参るうつ月　人
蓑着て太秦参るみつ蓑　兮
蓑着て太秦参るみつ蓑　素
雨ぬつるて二人賀茂詣　人
雨ぬつるて二人賀茂詣　兮
雨ぬつるて二人賀茂詣　素
雨ぬつるて二人賀茂詣　人
雨ぬつるて二人賀茂詣　笠
雨ぬつるて二人賀茂詣　水
雨ぬつるて二人賀茂詣　人
雨ぬつるて二人賀茂詣　笠
雨ぬつるて二人賀茂詣　水
雨ぬつるて二人賀茂詣　素
雨ぬつるて二人賀茂詣　人
雨ぬつるて二人賀茂詣　兮
雨ぬつるて二人賀茂詣　笠

立　圭　凡　立　兮　凡　相　立　圭　兮　相　凡　立　兮　凡　圭　圭　凡

名もかたち無きこと十ヨリ
大きなる人食ひなどの中に須賀
ゝるのゝ宮我に来ぬ情く 水
郭公の若葉のために柏植て 葉
こゝやゝとせるまき麦秋 人
山路ゝ蕎麦の畑ゝ青麦や 笠
こゝハ蕎麦ゝ蕎麦ゝ白きの月 水
陽炎に天涯たる吏路哉 葉
春の日神におのいとゝく 人
四方ヨリ山ゝ迫たる夏草 兮
力に勝ちたる中ヨリ 笠
但中ニ二丹の赤ちの沼ゝに 水
ゝ郭ゝの蕎麦ゝ白の山ゝ 葉
天分ゝ方ゝ方の月ゝ 人
実のつるに沙ゝ 兮
ゝ月十ヨの見まゝ 笠

四月十ヨの見まゝ

田植のゝ中ヨリ 水
郭ゝの蕎麦白ヨリ 且葉
蕨高ゝ岩屋の奥ゝ 我人
ゝ人と云ゝ馬の子 荷兮
ゝ茶屋ゝの丹波月 冬文

芦の根ゝ多ゝ 執筆
残陽に能除見の傍の蕎麦て 葉
ゝ月ヨリ蕎麦ゝ里 水
白のゝ山ゝ鶯鳴ゝ人 兮
ゝ蕎麦ゝ白ゝ 人
蕎麦ゝ鶯ゝ 水
高て中ヨリ人枝ゝ 文

今年ハ六月ヨリ
四十ヨの蕎麦ゝ 人
蕎麦ゝ 葉
蕎麦ゝ 文
神戸の蕎麦ゝ 兮
別に月ヨリ 葉
蕎麦ゝ 水
蕎麦ゝ 兮
結蕎麦ゝ 人
蕎麦ゝ 水
蕎麦ゝ 文
洲壺沢蕎麦ゝ 人
岩蕎麦ゝ 葉
ゝ蕎麦ゝ 文
ゝ蕎麦ゝ 人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜のひたすらうち寝て　利げ　織人
山畑の蕎麦つくりおきけり夕ゆふ　重丈
姥捨の月見ぬ秋ぞ　今

蕎

門まもる山もみぢ尾ハ　もし　九自
門もまの〻〻　蛍　雪瓜
門つたる板屋の軒の一里塚　織人
蛍　さハ葉うす色物のひらひら　杜文
若竹のうしろ　たゝ　春門
傘をあすの雨　永泉

武蔵野をつゝみ　蛍

すゝきの中ゆ　の石川　南考
遠坂の長ハ　蕎麦　陸奥
馬ひく　ぬ　の月　陸奥

光明寺和尚之庭常足

夕鳥に鈴　織人
茅の蛍　折自
ちゝ　蓬交
芒州　芒
蓬の色　今
蛍　昌圭
夜川の　重丈

辟言喩品と晨鐘安摘如

失尾ふる　織人

六月は行めぐり　蕎麦

秋

岩の畑　且業
ふ　の　か
蛍　織人
乃　自相
蛍　芭蕉
山　織人
尾　碧水
八　合
見　合
自　芳兮
蛍　今
蛍　永泉
馬　杜丘
芭蕉　蛍　村　自

尾張遠尭愃木堂之会行脚之子集成編之名を
はつの月行脚にかゝる成る事はまるに
はるをまつ人のこゝろの内とかし
別れの手けそ長き春の暮　芭蕉
芭蕉翁奥州之ゝ名所
この国の山ゝとゝ名所
張上に板あ〳〵富をまけて　牡丹
野〳〵まを遠繕ひとうあ〳〵羅　荷芋

尾張遠尭愃木堂之会行脚之子集成編之名を
はつの月行脚にかゝる成る事はまるに
はるをまつ人のこゝろの内とかし
別れの手けそ長き春の暮　芭蕉
芭蕉翁奥州之ゝ名所
この国の山ゝとゝ名所
張上に板あ〳〵富をまけて　牡丹
野〳〵まを遠繕ひとうあ〳〵羅　荷芋

元禄二年秋生

花ちるを
〳〵世にふる　芭蕉翁
これ〳〵とうのよりはよ　貞室
我まをいをまを〳〵もの　移遥
為ゆをまをこうもの　信徳
ものの山ゝとゝ〳〵まを　暑月

[illegible]　友五
山里に[illegible]　尚白
[illegible]　公来
みなの[illegible]　拝水
[illegible]　春岡
[illegible]　越人
[illegible]　一井
[illegible]　後似
[illegible]　嵐隆
[illegible]　舟泉
[illegible]　故及
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

月ならぬ

月おもて　十三夜

月おもて　十五夜

月おもて　十六夜

月おもて　十七夜

月おもて　十八夜

月おもて　十九夜

月おもて　二十夜

月おもて　二十一夜

月おもて　二十二夜

月おもて　二十三夜

月おもて　二十四夜

月おもて　二十五夜

月おもて　二十六夜

月おもて　二十七夜

月おもて　二十八夜

月おもて　二十九夜

月おもて　三十夜

月おもて　三十一夜

月おもて　三十二夜

月おもて　三十三夜

月おもて　三十四夜

月おもて　三十五夜

月おもて　三十六夜

月おもて　三十七夜

月おもて　三十八夜

月おもて　三十九夜

月おもて　四十夜

月おもて　四十一夜

月おもて　四十二夜

月おもて　四十三夜

月おもて　四十四夜

月おもて　四十五夜

月おもて　四十六夜

月おもて　四十七夜

月おもて　四十八夜

月おもて　四十九夜

月おもて　五十夜

月おもて　五十一夜

月おもて　五十二夜

月おもて　五十三夜

月おもて　五十四夜

月おもて　五十五夜

月おもて　五十六夜

月おもて　五十七夜

月おもて　五十八夜

月おもて　五十九夜

月おもて　六十夜

月おもて　六十一夜

月おもて　六十二夜

月おもて　六十三夜

月おもて　六十四夜

月おもて　六十五夜

月おもて　六十六夜

月おもて　六十七夜

月おもて　六十八夜

月おもて　六十九夜

月おもて　七十夜

月おもて　七十一夜

月おもて　七十二夜

月おもて　七十三夜

月おもて　七十四夜

月おもて　七十五夜

月おもて　七十六夜

月おもて　七十七夜

月おもて　七十八夜

月おもて　七十九夜

月おもて　八十夜

月おもて　八十一夜

月おもて　八十二夜

月おもて　八十三夜

月おもて　八十四夜

月おもて　八十五夜

月おもて　八十六夜

月おもて　八十七夜

月おもて　八十八夜

月おもて　八十九夜

月おもて　九十夜

月おもて　九十一夜

月おもて　九十二夜

月おもて　九十三夜

月おもて　九十四夜

月おもて　九十五夜

月おもて　九十六夜

月おもて　九十七夜

月おもて　九十八夜

月おもて　九十九夜

月おもて　百夜

月おもて　百一夜

月おもて　百二夜

月おもて　百三夜

月おもて　百四夜

月おもて　百五夜

月おもて　百六夜

月おもて　百七夜

月おもて　百八夜

月おもて　百九夜

月おもて　百十夜

月おもて　百十一夜

月おもて　百十二夜

月おもて　百十三夜

月おもて　百十四夜

月おもて　百十五夜

月おもて　百十六夜

月おもて　百十七夜

月おもて　百十八夜

月おもて　百十九夜

月おもて　百二十夜

月おもて　百二十一夜

月おもて　百二十二夜

月おもて　百二十三夜

月おもて　百二十四夜

月おもて　百二十五夜

月おもて　百二十六夜

月おもて　百二十七夜

月おもて　百二十八夜

月おもて　百二十九夜

月おもて　百三十夜

月おもて　百三十一夜

月おもて　百三十二夜

月おもて　百三十三夜

月おもて　百三十四夜

月おもて　百三十五夜

月おもて　百三十六夜

月おもて　百三十七夜

月おもて　百三十八夜

月おもて　百三十九夜

月おもて　百四十夜

月おもて　百四十一夜

月おもて　百四十二夜

月おもて　百四十三夜

月おもて　百四十四夜

月おもて　百四十五夜

月おもて　百四十六夜

月おもて　百四十七夜

月おもて　百四十八夜

月おもて　百四十九夜

月おもて　百五十夜

月おもて　百五十一夜

月おもて　百五十二夜

月おもて　百五十三夜

月おもて　百五十四夜

月おもて　百五十五夜

月おもて　百五十六夜

月おもて　百五十七夜

月おもて　百五十八夜

月おもて　百五十九夜

月おもて　百六十夜

月おもて　百六十一夜

月おもて　百六十二夜

月おもて　百六十三夜

月おもて　百六十四夜

月おもて　百六十五夜

月おもて　百六十六夜

月おもて　百六十七夜

月おもて　百六十八夜

月おもて　百六十九夜

月おもて　百七十夜

月おもて　百七十一夜

月おもて　百七十二夜

月おもて　百七十三夜

月おもて　百七十四夜

月おもて　百七十五夜

月おもて　百七十六夜

月おもて　百七十七夜

月おもて　百七十八夜

月おもて　百七十九夜

月おもて　百八十夜

月おもて　百八十一夜

月おもて　百八十二夜

月おもて　百八十三夜

月おもて　百八十四夜

月おもて　百八十五夜

月おもて　百八十六夜

月おもて　百八十七夜

月おもて　百八十八夜

月おもて　百八十九夜

月おもて　百九十夜

月おもて　百九十一夜

月おもて　百九十二夜

月おもて　百九十三夜

月おもて　百九十四夜

月おもて　百九十五夜

月おもて　百九十六夜

月おもて　百九十七夜

月おもて　百九十八夜

月おもて　百九十九夜

月おもて　二百夜

月おもて　二百一夜

月おもて　二百二夜

月おもて　二百三夜

月おもて　二百四夜

月おもて　二百五夜

月おもて　二百六夜

月おもて　二百七夜

月おもて　二百八夜

月おもて　二百九夜

月おもて　二百十夜

月おもて　二百十一夜

月おもて　二百十二夜

月おもて　二百十三夜

月おもて　二百十四夜

月おもて　二百十五夜

月おもて　二百十六夜

月おもて　二百十七夜

月おもて　二百十八夜

月おもて　二百十九夜

月おもて　二百二十夜

月おもて　二百二十一夜

月おもて　二百二十二夜

月おもて　二百二十三夜

月おもて　二百二十四夜

月おもて　二百二十五夜

月おもて　二百二十六夜

月おもて　二百二十七夜

月おもて　二百二十八夜

月おもて　二百二十九夜

月おもて　二百三十夜

月おもて　二百三十一夜

月おもて　二百三十二夜

月おもて　二百三十三夜

月おもて　二百三十四夜

月おもて　二百三十五夜

月おもて　二百三十六夜

月おもて　二百三十七夜

月おもて　二百三十八夜

月おもて　二百三十九夜

月おもて　二百四十夜

月おもて　二百四十一夜

月おもて　二百四十二夜

月おもて　二百四十三夜

月おもて　二百四十四夜

月おもて　二百四十五夜

月おもて　二百四十六夜

月おもて　二百四十七夜

月おもて　二百四十八夜

月おもて　二百四十九夜

月おもて　二百五十夜

月おもて　二百五十一夜

月おもて　二百五十二夜

月おもて　二百五十三夜

月おもて　二百五十四夜

月おもて　二百五十五夜

月おもて　二百五十六夜

月おもて　二百五十七夜

月おもて　二百五十八夜

月おもて　二百五十九夜

月おもて　二百六十夜

月おもて　二百六十一夜

月おもて　二百六十二夜

月おもて　二百六十三夜

月おもて　二百六十四夜

月おもて　二百六十五夜

月おもて　二百六十六夜

月おもて　二百六十七夜

月おもて　二百六十八夜

月おもて　二百六十九夜

月おもて　二百七十夜

月おもて　二百七十一夜

月おもて　二百七十二夜

月おもて　二百七十三夜

月おもて　二百七十四夜

月おもて　二百七十五夜

月おもて　二百七十六夜

月おもて　二百七十七夜

月おもて　二百七十八夜

月おもて　二百七十九夜

月おもて　二百八十夜

月おもて　二百八十一夜

月おもて　二百八十二夜

月おもて　二百八十三夜

月おもて　二百八十四夜

月おもて　二百八十五夜

月おもて　二百八十六夜

月おもて　二百八十七夜

月おもて　二百八十八夜

月おもて　二百八十九夜

月おもて　二百九十夜

月おもて　二百九十一夜

月おもて　二百九十二夜

月おもて　二百九十三夜

月おもて　二百九十四夜

月おもて　二百九十五夜

月おもて　二百九十六夜

月おもて　二百九十七夜

月おもて　二百九十八夜

月おもて　二百九十九夜

月おもて　三百夜

月おもて　三百一夜

月おもて　三百二夜

月おもて　三百三夜

月おもて　三百四夜

月おもて　三百五夜

月おもて　三百六夜

月おもて　三百七夜

月おもて　三百八夜

月おもて　三百九夜

月おもて　三百十夜

月おもて　三百十一夜

月おもて　三百十二夜

月おもて　三百十三夜

月おもて　三百十四夜

月おもて　三百十五夜

月おもて　三百十六夜

月おもて　三百十七夜

月おもて　三百十八夜

月おもて　三百十九夜

月おもて　三百二十夜

月おもて　三百二十一夜

月おもて　三百二十二夜

月おもて　三百二十三夜

月おもて　三百二十四夜

月おもて　三百二十五夜

月おもて　三百二十六夜

月おもて　三百二十七夜

月おもて　三百二十八夜

月おもて　三百二十九夜

月おもて　三百三十夜

月おもて　三百三十一夜

月おもて　三百三十二夜

月おもて　三百三十三夜

月おもて　三百三十四夜

月おもて　三百三十五夜

月おもて　三百三十六夜

月おもて　三百三十七夜

月おもて　三百三十八夜

月おもて　三百三十九夜

月おもて　三百四十夜

月おもて　三百四十一夜

月おもて　三百四十二夜

月おもて　三百四十三夜

月おもて　三百四十四夜

月おもて　三百四十五夜

月おもて　三百四十六夜

月おもて　三百四十七夜

月おもて　三百四十八夜

月おもて　三百四十九夜

月おもて　三百五十夜

月おもて　三百五十一夜

月おもて　三百五十二夜

月おもて　三百五十三夜

月おもて　三百五十四夜

月おもて　三百五十五夜

月おもて　三百五十六夜

月おもて　三百五十七夜

月おもて　三百五十八夜

月おもて　三百五十九夜

月おもて　三百六十夜

月おもて　三百六十一夜

月おもて　三百六十二夜

月おもて　三百六十三夜

月おもて　三百六十四夜

月おもて　三百六十五夜

月おもて　三百六十六夜

月おもて　三百六十七夜

月おもて　三百六十八夜

月おもて　三百六十九夜

月おもて　三百七十夜

月おもて　三百七十一夜

月おもて　三百七十二夜

月おもて　三百七十三夜

月おもて　三百七十四夜

月おもて　三百七十五夜

月おもて　三百七十六夜

月おもて　三百七十七夜

月おもて　三百七十八夜

月おもて　三百七十九夜

月おもて　三百八十夜

月おもて　三百八十一夜

月おもて　三百八十二夜

月おもて　三百八十三夜

月おもて　三百八十四夜

月おもて　三百八十五夜

月おもて　三百八十六夜

月おもて　三百八十七夜

月おもて　三百八十八夜

月おもて　三百八十九夜

月おもて　三百九十夜

月おもて　三百九十一夜

月おもて　三百九十二夜

月おもて　三百九十三夜

月おもて　三百九十四夜

月おもて　三百九十五夜

月おもて　三百九十六夜

月おもて　三百九十七夜

月おもて　三百九十八夜

月おもて　三百九十九夜

月おもて　四百夜

月おもて　四百一夜

月おもて　四百二夜

月おもて　四百三夜

月おもて　四百四夜

月おもて　四百五夜

月おもて　四百六夜

月おもて　四百七夜

月おもて　四百八夜

月おもて　四百九夜

月おもて　四百十夜

月おもて　四百十一夜

月おもて　四百十二夜

月おもて　四百十三夜

月おもて　四百十四夜

月おもて　四百十五夜

月おもて　四百十六夜

月おもて　四百十七夜

月おもて　四百十八夜

月おもて　四百十九夜

月おもて　四百二十夜

月おもて　四百二十一夜

月おもて　四百二十二夜

月おもて　四百二十三夜

月おもて　四百二十四夜

月おもて　四百二十五夜

月おもて　四百二十六夜

月おもて　四百二十七夜

月おもて　四百二十八夜

月おもて　四百二十九夜

月おもて　四百三十夜

月おもて　四百三十一夜

月おもて　四百三十二夜

月おもて　四百三十三夜

月おもて　四百三十四夜

月おもて　四百三十五夜

月おもて　四百三十六夜

月おもて　四百三十七夜

月おもて　四百三十八夜

月おもて　四百三十九夜

月おもて　四百四十夜

月おもて　四百四十一夜

月おもて　四百四十二夜

月おもて　四百四十三夜

月おもて　四百四十四夜

月おもて　四百四十五夜

月おもて　四百四十六夜

月おもて　四百四十七夜

月おもて　四百四十八夜

月おもて　四百四十九夜

月おもて　五百夜

月おもて　五百一夜

月おもて　五百二夜

月おもて　五百三夜

月おもて　五百四夜

月おもて　五百五夜

月おもて　五百六夜

月おもて　五百七夜

月おもて　五百八夜

月おもて　五百九夜

月おもて　五百十夜

月おもて　五百十一夜

月おもて　五百十二夜

月おもて　五百十三夜

月おもて　五百十四夜

月おもて　五百十五夜

月おもて　五百十六夜

月おもて　五百十七夜

月おもて　五百十八夜

月おもて　五百十九夜

月おもて　五百二十夜

月おもて　五百二十一夜

月おもて　五百二十二夜

月おもて　五百二十三夜

月おもて　五百二十四夜

月おもて　五百二十五夜

月おもて　五百二十六夜

月おもて　五百二十七夜

月おもて　五百二十八夜

月おもて　五百二十九夜

月おもて　五百三十夜

月おもて　五百三十一夜

月おもて　五百三十二夜

月おもて　五百三十三夜

月おもて　五百三十四夜

月おもて　五百三十五夜

月おもて　五百三十六夜

月おもて　五百三十七夜

月おもて　五百三十八夜

月おもて　五百三十九夜

月おもて　五百四十夜

月おもて　五百四十一夜

月おもて　五百四十二夜

月おもて　五百四十三夜

月おもて　五百四十四夜

月おもて　五百四十五夜

月おもて　五百四十六夜

月おもて　五百四十七夜

月おもて　五百四十八夜

月おもて　五百四十九夜

月おもて　六百夜

月おもて　六百一夜

月おもて　六百二夜

月おもて　六百三夜

月おもて　六百四夜

月おもて　六百五夜

月おもて　六百六夜

月おもて　六百七夜

月おもて　六百八夜

月おもて　六百九夜

月おもて　六百十夜

月おもて　六百十一夜

月おもて　六百十二夜

月おもて　六百十三夜

月おもて　六百十四夜

月おもて　六百十五夜

月おもて　六百十六夜

月おもて　六百十七夜

月おもて　六百十八夜

月おもて　六百十九夜

月おもて　六百二十夜

月おもて　六百二十一夜

月おもて　六百二十二夜

月おもて　六百二十三夜

月おもて　六百二十四夜

月おもて　六百二十五夜

月おもて　六百二十六夜

月おもて　六百二十七夜

月おもて　六百二十八夜

月おもて　六百二十九夜

月おもて　六百三十夜

月おもて　六百三十一夜

月おもて　六百三十二夜

月おもて　六百三十三夜

月おもて　六百三十四夜

月おもて　六百三十五夜

月おもて　六百三十六夜

月おもて　六百三十七夜

月おもて　六百三十八夜

月おもて　六百三十九夜

月おもて　六百四十夜

月おもて　六百四十一夜

月おもて　六百四十二夜

月おもて　六百四十三夜

月おもて　六百四十四夜

月おもて　六百四十五夜

月おもて　六百四十六夜

月おもて　六百四十七夜

月おもて　六百四十八夜

月おもて　六百四十九夜

月おもて　七百夜

月おもて　七百一夜

月おもて　七百二夜

月おもて　七百三夜

月おもて　七百四夜

月おもて　七百五夜

月おもて　七百六夜

月おもて　七百七夜

月おもて　七百八夜

月おもて　七百九夜

月おもて　七百十夜

月おもて　七百十一夜

月おもて　七百十二夜

月おもて　七百十三夜

月おもて　七百十四夜

月おもて　七百十五夜

月おもて　七百十六夜

月おもて　七百十七夜

月おもて　七百十八夜

月おもて　七百十九夜

月おもて　七百二十夜

月おもて　七百二十一夜

月おもて　七百二十二夜

月おもて　七百二十三夜

月おもて　七百二十四夜

月おもて　七百二十五夜

月おもて　七百二十六夜

月おもて　七百二十七夜

月おもて　七百二十八夜

月おもて　七百二十九夜

月おもて　七百三十夜

月おもて　七百三十一夜

月おもて　七百三十二夜

月おもて　七百三十三夜

月おもて　七百三十四夜

月おもて　七百三十五夜

月おもて　七百三十六夜

月おもて　七百三十七夜

月おもて　七百三十八夜

月おもて　七百三十九夜

月おもて　七百四十夜

月おもて　七百四十一夜

月おもて　七百四十二夜

月おもて　七百四十三夜

月おもて　七百四十四夜

月おもて　七百四十五夜

月おもて　七百四十六夜

月おもて　七百四十七夜

月おもて　七百四十八夜

月おもて　七百四十九夜

月おもて　八百夜

月おもて　八百一夜

月おもて　八百二夜

月おもて　八百三夜

月おもて　八百四夜

月おもて　八百五夜

月おもて　八百六夜

月おもて　八百七夜

月おもて　八百八夜

月おもて　八百九夜

月おもて　八百十夜

月おもて　八百十一夜

月おもて　八百十二夜

月おもて　八百十三夜

月おもて　八百十四夜

月おもて　八百十五夜

月おもて　八百十六夜

月おもて　八百十七夜

月おもて　八百十八夜

月おもて　八百十九夜

月おもて　八百二十夜

月おもて　八百二十一夜

月おもて　八百二十二夜

月おもて　八百二十三夜

月おもて　八百二十四夜

月おもて　八百二十五夜

月おもて　八百二十六夜

月おもて　八百二十七夜

月おもて　八百二十八夜

月おもて　八百二十九夜

月おもて　八百三十夜

月おもて　八百三十一夜

月おもて　八百三十二夜

月おもて　八百三十三夜

月おもて　八百三十四夜

月おもて　八百三十五夜

月おもて　八百三十六夜

月おもて　八百三十七夜

月おもて　八百三十八夜

月おもて　八百三十九夜

月おもて　八百四十夜

月おもて　八百四十一夜

月おもて　八百四十二夜

月おもて　八百四十三夜

月おもて　八百四十四夜

月おもて　八百四十五夜

月おもて　八百四十六夜

月おもて　八百四十七夜

月おもて　八百四十八夜

月おもて　八百四十九夜

月おもて　九百夜

月おもて　九百一夜

月おもて　九百二夜

月おもて　九百三夜

月おもて　九百四夜

月おもて　九百五夜

月おもて　九百六夜

月おもて　九百七夜

月おもて　九百八夜

月おもて　九百九夜

月おもて　九百十夜

月おもて　九百十一夜

月おもて　九百十二夜

月おもて　九百十三夜

月おもて　九百十四夜

月おもて　九百十五夜

月おもて　九百十六夜

月おもて　九百十七夜

月おもて　九百十八夜

月おもて　九百十九夜

月おもて　九百二十夜

月おもて　九百二十一夜

月おもて　九百二十二夜

月おもて　九百二十三夜

月おもて　九百二十四夜

月おもて　九百二十五夜

月おもて　九百二十六夜

月おもて　九百二十七夜

月おもて　九百二十八夜

月おもて　九百二十九夜

月おもて　九百三十夜

月おもて　九百三十一夜

月おもて　九百三十二夜

月おもて　九百三十三夜

月おもて　九百三十四夜

月おもて　九百三十五夜

月おもて　九百三十六夜

月おもて　九百三十七夜

月おもて　九百三十八夜

月おもて　九百三十九夜

月おもて　九百四十夜

月おもて　九百四十一夜

月おもて　九百四十二夜

月おもて　九百四十三夜

月おもて　九百四十四夜

月おもて　九百四十五夜

月おもて　九百四十六夜

月おもて　九百四十七夜

月おもて　九百四十八夜

月おもて　九百四十九夜

月おもて　十百夜

月おもて　十百一夜

月おもて　十百二夜

月おもて　十百三夜

月おもて　十百四夜

月おもて　十百五夜

月おもて　十百六夜

月おもて　十百七夜

月おもて　十百八夜

月おもて　十百九夜

月おもて　十百十夜

月おもて　十百十一夜

月おもて　十百十二夜

月おもて　十百十三夜

月おもて　十百十四夜

月おもて　十百十五夜

月おもて　十百十六夜

月おもて　十百十七夜

月おもて　十百十八夜

月おもて　十百十九夜

月おもて　十百二十夜

月おもて　十百二十一夜

月おもて　十百二十二夜

月おもて　十百二十三夜

月おもて　十百二十四夜

月おもて　十百二十五夜

月おもて　十百二十六夜

月おもて　十百二十七夜

月おもて　十百二十八夜

月おもて　十百二十九夜

月おもて　十百三十夜

月おもて　十百三十一夜

月おもて　十百三十二夜

月おもて　十百三十三夜

月おもて　十百三十四夜

月おもて　十百三十五夜

月おもて　十百三十六夜

月おもて　十百三十七夜

月おもて　十百三十八夜

月おもて　十百三十九夜

月おもて　十百四十夜

月おもて　十百四十一夜

月おもて　十百四十二夜

月おもて　十百四十三夜

月おもて　十百四十四夜

月おもて　十百四十五夜

月おもて　十百四十六夜

月おもて　十百四十七夜

月おもて　十百四十八夜

月おもて　十百四十九夜

月おもて　十百五十夜

月おもて　十百五十一夜

月おもて　十百五十二夜

月おもて　十百五十三夜

月おもて　十百五十四夜

月おもて　十百五十五夜

月おもて　十百五十六夜

月おもて　十百五十七夜

月おもて　十百五十八夜

月おもて　十百五十九夜

月おもて　十百六十夜

月おもて　十百六十一夜

月おもて　十百六十二夜

月おもて　十百六十三夜

月おもて　十百六十四夜

月おもて　十百六十五夜

月おもて　十百六十六夜

月おもて　十百六十七夜

月おもて　十百六十八夜

月おもて　十百六十九夜

月おもて　十百七十夜

月おもて　十百七十一夜

月おもて　十百七十二夜

月おもて　十百七十三夜

月おもて　十百七十四夜

月おもて　十百七十五夜

月おもて　十百七十六夜

月おもて　十百七十七夜

月おもて　十百七十八夜

月おもて　十百七十九夜

月おもて　十百八十夜

月おもて　十百八十一夜

月おもて　十百八十二夜

月おもて　十百八十三夜

月おもて　十百八十四夜

月おもて　十百八十五夜

月おもて　十百八十六夜

月おもて　十百八十七夜

月おもて　十百八十八夜

月おもて　十百八十九夜

月おもて　十百九十夜

月おもて　十百九十一夜

月おもて　十百九十二夜

月おもて　十百九十三夜

月おもて　十百九十四夜

月おもて　十百九十五夜

月おもて　十百九十六夜

月おもて　十百九十七夜

月おもて　十百九十八夜

月おもて　十百九十九夜

月おもて　千百夜

月おもて　千百一夜

月おもて　千百二夜

月おもて　千百三夜

月おもて　千百四夜

月おもて　千百五夜

月おもて　千百六夜

月おもて　千百七夜

月おもて　千百八夜

月おもて　千百九夜

月おもて　千百十夜

月おもて　千百十一夜

月おもて　千百十二夜

月おもて　千百十三夜

月おもて　千百十四夜

月おもて　千百十五夜

月おもて　千百十六夜

月おもて　千百十七夜

月おもて　千百十八夜

月おもて　千百十九夜

月おもて　千百二十夜

月おもて　千百二十一夜

月おもて　千百二十二夜

月おもて　千百二十三夜

月おもて　千百二十四夜

月おもて　千百二十五夜

月おもて　千百二十六夜

月おもて　千百二十七夜

月おもて　千百二十八夜

月おもて　千百二十九夜

月おもて　千百三十夜

月おもて　千百三十一夜

月おもて　千百三十二夜

月おもて　千百三十三夜

月おもて　千百三十四夜

月おもて　千百三十五夜

月おもて　千百三十六夜

月おもて　千百三十七夜

月おもて　千百三十八夜

月おもて　千百三十九夜

月おもて　千百四十夜

月おもて　千百四十一夜

月おもて　千百四十二夜

月おもて　千百四十三夜

月おもて　千百四十四夜

月おもて　千百四十五夜

月おもて　千百四十六夜

月おもて　千百四十七夜

月おもて　千百四十八夜

月おもて　千百四十九夜

月おもて　千百五十夜

月おもて　千百五十一夜

月おもて　千百五十二夜

月おもて　千百五十三夜

月おもて　千百五十四夜

月おもて　千百五十五夜

月おもて　千百五十六夜

月おもて　千百五十七夜

月おもて　千百五十八夜

月おもて　千百五十九夜

月おもて　千百六十夜

月おもて　千百六十一夜

月おもて　千百六十二夜

月おもて　千百六十三夜

月おもて　千百六十四夜

月おもて　千百六十五夜

月おもて　千百六十六夜

月おもて　千百六十七夜

月おもて　千百六十八夜

月おもて　千百六十九夜

月おもて　千百七十夜

月おもて　千百七十一夜

月おもて　千百七十二夜

月おもて　千百七十三夜

月おもて　千百七十四夜

月おもて　千百七十五夜

月おもて　千百七十六夜

月おもて　千百七十七夜

月おもて　千百七十八夜

月おもて　千百七十九夜

月おもて　千百八十夜

月おもて　千百八十一夜

月おもて　千百八十二夜

月おもて　千百八十三夜

月おもて　千百八十四夜

月おもて　千百八十五夜

月おもて　千百八十六夜

月おもて　千百八十七夜

月おもて　千百八十八夜

月おもて　千百八十九夜

月おもて　千百九十夜

月おもて　千百九十一夜

月おもて　千百九十二夜

月おもて　千百九十三夜

月おもて　千百九十四夜

月おもて　千百九十五夜

月おもて　千百九十六夜

月おもて　千百九十七夜

月おもて　千百九十八夜

月おもて　千百九十九夜

月おもて　二千夜

月おもて　二千一夜

月おもて　二千二夜

月おもて　二千三夜

月おもて　二千四夜

月おもて　二千五夜

月おもて　二千六夜

月おもて　二千七夜

月おもて　二千八夜

月おもて　二千九夜

月おもて　二千十夜

月おもて　二千十一夜

月おもて　二千十二夜

月おもて　二千十三夜

月おもて　二千十四夜

月おもて　二千十五夜

月おもて　二千十六夜

月おもて　二千十七夜

月おもて　二千十八夜

月おもて　二千十九夜

月おもて　二千二十夜

月おもて　二千二十一夜

月おもて　二千二十二夜

月おもて　二千二十三夜

月おもて　二千二十四夜

月おもて　二千二十五夜

月おもて　二千二十六夜

月おもて　二千二十七夜

月おもて　二千二十八夜

月おもて　二千二十九夜

月おもて　二千三十夜

月おもて　二千三十一夜

月おもて　二千三十二夜

月おもて　二千三十三夜

月おもて　二千三十四夜

月おもて　二千三十五夜

月おもて　二千三十六夜

月おもて　二千三十七夜

月おもて　二千三十八夜

月おもて　二千三十九夜

月おもて　二千四十夜

月おもて　二千四十一夜

月おもて　二千四十二夜

月おもて　二千四十三夜

月おもて　二千四十四夜

月おもて　二千四十五夜

月おもて　二千四十六夜

月おもて　二千四十七夜

月おもて　二千四十八夜

月おもて　二千四十九夜

月おもて　二千五十夜

月おもて　二千五十一夜

月おもて　二千五十二夜

月おもて　二千五十三夜

月おもて　二千五十四夜

月おもて　二千五十五夜

月おもて　二千五十六夜

月おもて　二千五十七夜

月おもて　二千五十八夜

月おもて　二千五十九夜

月おもて　二千六十夜

月おもて　二千六十一夜

月おもて　二千六十二夜

月おもて　二千六十三夜

月おもて　二千六十四夜

月おもて　二千六十五夜

月おもて　二千六十六夜

月おもて　二千六十七夜

月おもて　二千六十八夜

月おもて　二千六十九夜

月おもて　二千七十夜

月おもて　二千七十一夜

月おもて　二千七十二夜

月おもて　二千七十三夜

月おもて　二千七十四夜

月おもて　二千七十五夜

月おもて　二千七十六夜

月おもて　二千七十七夜

月おもて　二千七十八夜

月おもて　二千七十九夜

月おもて　二千八十夜

月おもて　二千八十一夜

月おもて　二千八十二夜

月おもて　二千八十三夜

月おもて　二千八十四夜

月おもて　二千八十五夜

月おもて　二千八十六夜

月おもて　二千八十七夜

月おもて　二千八十八夜

月おもて　二千八十九夜

月おもて　二千九十夜

月おもて　二千九十一夜

月おもて　二千九十二夜

月おもて　二千九十三夜

月おもて　二千九十四夜

月おもて　二千九十五夜

月おもて　二千九十六夜

月おもて　二千九十七夜

月おもて　二千九十八夜

月おもて　二千九十九夜

月おもて　三千夜

月おもて　三千一夜

月おもて　三千二夜

月おもて　三千三夜

月おもて　三千四夜

月おもて　三千五夜

月おもて　三千六夜

月おもて　三千七夜

月おもて　三千八夜

月おもて　三千九夜

月おもて　三千十夜

月おもて　三千十一夜

月おもて　三千十二夜

月おもて　三千十三夜

月おもて　三千十四夜

月おもて　三千十五夜

月おもて　三千十六夜

月おもて　三千十七夜

月おもて　三千十八夜

月おもて　三千十九夜

月おもて　三千二十夜

月おもて　三千二十一夜

月おもて　三千二十二夜

月おもて　三千二十三夜

月おもて　三千二十四夜

月おもて　三千二十五夜

月おもて　三千二十六夜

月おもて　三千二十七夜

月おもて　三千二十八夜

月おもて　三千二十九夜

月おもて　三千三十夜

月おもて　三千三十一夜

月おもて　三千三十二夜

月おもて　三千三十三夜

月おもて　三千三十四夜

月おもて　三千三十五夜

月おもて　三千三十六夜

月おもて　三千三十七夜

月おもて　三千三十八夜

月おもて　三千三十九夜

月おもて　三千四十夜

月おもて　三千四十一夜

月おもて　三千四十二夜

月おもて　三千四十三夜

月おもて　三千四十四夜

月おもて　三千四十五夜

月おもて　三千四十六夜

月おもて　三千四十七夜

月おもて　三千四十八夜

月おもて　三千四十九夜

月おもて　三千五十夜

月おもて　三千五十一夜

月おもて　三千五十二夜

月おもて　三千五十三夜

月おもて　三千五十四夜

月おもて　三千五十五夜

月おもて　三千五十六夜

月おもて　三千五十七夜

月おもて　三千五十八夜

月おもて　三千五十九夜

月おもて　三千六十夜

月おもて　三千六十一夜

月おもて　三千六十二夜

月おもて　三千六十三夜

月おもて　三千六十四夜

月おもて　三千六十五夜

月おもて　三千六十六夜

月おもて　三千六十七夜

月おもて　三千六十八夜

月おもて　三千六十九夜

月おもて　三千七十夜

月おもて　三千七十一夜

月おもて　三千七十二夜

月おもて　三千七十三夜

月おもて　三千七十四夜

月おもて　三千七十五夜

月おもて　三千七十六夜

月おもて　三千七十七夜

月おもて　三千七十八夜

月おもて　三千七十九夜

月おもて　三千八十夜

月おもて　三千八十一夜

月おもて　三千八十二夜

月おもて　三千八十三夜

月おもて　三千八十四夜

月おもて　三千八十五夜

月おもて　三千八十六夜

月おもて　三千八十七夜

月おもて　三千八十八夜

月おもて　三千八十九夜

月おもて　三千九十夜

月おもて　三千九十一夜

月おもて　三千九十二夜

月おもて　三千九十三夜

月おもて　三千九十四夜

月おもて　三千九十五夜

月おもて　三千九十六夜

月おもて　三千九十七夜

月おもて　三千九十八夜

月おもて　三千九十九夜

月おもて　四千夜

月おもて　四千一夜

月おもて　四千二夜

月おもて　四千三夜

月おもて　四千四夜

月おもて　四千五夜

月おもて　四千六夜

月おもて　四千七夜

月おもて　四千八夜

月おもて　四千九夜

月おもて　四千十夜

月おもて　四千十一夜

月おもて　四千十二夜

月おもて　四千十三夜

月おもて　四千十四夜

月おもて　四千十五夜

月おもて　四千十六夜

月おもて　四千十七夜

月おもて　四千十八夜

月おもて　四千十九夜

月おもて　四千二十夜

月おもて　四千二十一夜

月おもて　四千二十二夜

月おもて　四千二十三夜

月おもて　四千二十四夜

月おもて　四千二十五夜

月おもて　四千二十六夜

月おもて　四千二十七夜

月おもて　四千二十八夜

月おもて　四千二十九夜

月おもて　四千三十夜

月おもて　四千三十一夜

月おもて　四千三十二夜

月おもて　四千三十三夜

月おもて　四千三十四夜

月おもて　四千三十五夜

月おもて　四千三十六夜

月おもて　四千三十七夜

月おもて　四千三十八夜

月おもて　四千三十九夜

月おもて　四千四十夜

月おもて　四千四十一夜

月おもて　四千四十二夜

月おもて　四千四十三夜

月おもて　四千四十四夜

月おもて　四千四十五夜

月おもて　四千四十六夜

月おもて　四千四十七夜

月おもて　四千四十八夜

月おもて　四千四十九夜

月おもて　五千夜

月おもて　五千一夜

月おもて　五千二夜

月おもて　五千三夜

月おもて　五千四夜

月おもて　五千五夜

月おもて　五千六夜

月おもて　五千七夜

月おもて　五千八夜

月おもて　五千九夜

月おもて　五千十夜

月おもて　五千十一夜

月おもて　五千十二夜

月おもて　五千十三夜

月おもて　五千十四夜

月おもて　五千十五夜

月おもて　五千十六夜

月おもて　五千十七夜

月おもて　五千十八夜

月おもて　五千十九夜

月おもて　五千二十夜

月おもて　五千二十一夜

月おもて　五千二十二夜

月おもて　五千二十三夜

月おもて　五千二十四夜

月おもて　五千二十五夜

月おもて　五千二十六夜

月おもて　五千二十七夜

月おもて　五千二十八夜

月おもて　五千二十九夜

月おもて　五千三十夜

月おもて　五千三十一夜

月おもて　五千三十二夜

月おもて　五千三十三夜

月おもて　五千三十四夜

月おもて　五千三十五夜

月おもて　五千三十六夜

月おもて　五千三十七夜

月おもて　五千三十八夜

月おもて　五千三十九夜

月おもて　五千四十夜

月おもて　五千四十一夜

月おもて　五千四十二夜

月おもて　五千四十三夜

月おもて　五千四十四夜

月おもて　五千四十五夜

月おもて　五千四十六夜

月おもて　五千四十七夜

月おもて　五千四十八夜

月おもて　五千四十九夜

月おもて　六千夜

月おもて　六千一夜

月おもて　六千二夜

月おもて　六千三夜

月おもて　六千四夜

月おもて　六千五夜

月おもて　六千六夜

月おもて　六千七夜

月おもて　六千八夜

月おもて　六千九夜

月おもて　六千十夜

月おもて　六千十一夜

月おもて　六千十二夜

月おもて　六千十三夜

月おもて　六千十四夜

月おもて　六千十五夜

月おもて　六千十六夜

月おもて　六千十七夜

月おもて　六千十八夜

月おもて　六千十九夜

月おもて　六千二十夜

月おもて　六千二十一夜

月おもて　六千二十二夜

月おもて　六千二十三夜

月おもて　六千二十四夜

月おもて　六千二十五夜

月おもて　六千二十六夜

月おもて　六千二十七夜

月おもて　六千二十八夜

月おもて　六千二十九夜

月おもて　六千三十夜

月おもて　六千三十一夜

月おもて　六千三十二夜

月おもて　六千三十三夜

月おもて　六千三十四夜

月おもて　六千三十五夜

月おもて　六千三十六夜

月おもて　六千三十七夜

月おもて　六千三十八夜

月おもて　六千三十九夜

月おもて　六千四十夜

月おもて　六千四十一夜

月おもて　六千四十二夜

月おもて　六千四十三夜

月おもて　六千四十四夜

月おもて　六千四十五夜

月おもて　六千四十六夜

月おもて　六千四十七夜

月おもて　六千四十八夜

月おもて　六千四十九夜

月おもて　七千夜

月おもて　七千一夜

月おもて　七千二夜

月おもて　七千三夜

月おもて　七千四夜

月おもて　七千五夜

月おもて　七千六夜

月おもて　七千七夜

月おもて　七千八夜

月おもて　七千九夜

月おもて　七千十夜

月おもて　七千十一夜

月おもて　七千十二夜

月おもて　七千十三夜

月おもて　七千十四夜

月おもて　七千十五夜

月おもて　七千十六夜

月おもて　七千十七夜

月おもて　七千十八夜

月おもて　七千十九夜

月おもて　七千二十夜

月おもて　七千二十一夜

月おもて　七千二十二夜

月おもて　七千二十三夜

月おもて　七千二十四夜

月おもて　七千二十五夜

月おもて　七千二十六夜

月おもて　七千二十七夜

月おもて　七千二十八夜

月おもて　七千二十九夜

月おもて　七千三十夜

月おもて　七千三十一夜

月おもて　七千三十二夜

月おもて　七千三十三夜

月おもて　七千三十四夜

月おもて　七千三十五夜

月おもて　七千三十六夜

月おもて　七千三十七夜

月おもて　七千三十八夜

月おもて　七千三十九夜

月おもて　七千四十夜

月おもて　七千四十一夜

月おもて　七千四十二夜

月おもて　七千四十三夜

月おもて　七千四十四夜

月おもて　七千四十五夜

月おもて　七千四十六夜

月おもて　七千四十七夜

月おもて　七千四十八夜

月おもて　七千四十九夜

月おもて　八千夜

月おもて　八千一夜

月おもて　八千二夜

月おもて　八千三夜

月おもて　八千四夜

月おもて　八千五夜

月おもて　八千六夜

月おもて　八千七夜

月おもて　八千八夜

月おもて　八千九夜

月おもて　八千十夜

月おもて　八千十一夜

月おもて　八千十二夜

月おもて　八千十三夜

月おもて　八千十四夜

月おもて　八千十五夜

月おもて　八千十六夜

六月

結びつんで　ゆうべ　自然と　路傍

七月

ゆき　程なく　形せ　海と　自然と　ギフ　一製

七月二十日

大津　出て

ゆきの　中　船頭　ゆく　新の　色　真角

いきけん　まで　見えて　ゆく　ゆく　芭蕉

井戸　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　庭交

ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　山　ゆく　山　ゆく　山　来　如生

車　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　カ、　小姿

ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

若狭　玄来　一相　一笑　市村　夢々　物古　野水　蓼交　冬文　芭蕉　傘下　通　竹

卜枝

本　乎泉

接木

傘下　竹

梅

同

卜枝

夏目

同　　鳴水

白尾雪　　巣渓

野水　　等躬

十二月　　乎泉

舟泉　　其角

芭蕉　　陸車

冬文　　書江

巣渓　　野水

織人　　一笑

小春　　一笑

周碧　　春雨

[illegible]　山橋
[illegible]　春雨
[illegible]　松芳
[illegible]　校游
[illegible]　荷兮
[illegible]　金
[illegible]　素秋
[illegible]　鄙家
[illegible]　生林

仲夏

[illegible]　不梅
[illegible]　生虹
[illegible]　傘下
[illegible]　清泉
[illegible]　玄東
[illegible]　昌碧
[illegible]　誠人
[illegible]　矣美
[illegible]　除夕
[illegible]　一橋
[illegible]　彦松
[illegible]　一鶴
[illegible]　世水

[illegible]　除夕
[illegible]　一雪
[illegible]　清東
[illegible]　宗謙
[illegible]　彦梧
[illegible]　誠人
[illegible]　玄東
[illegible]　彦梧
[illegible]　松下
[illegible]　一井
[illegible]　柿夕
[illegible]　梅園
[illegible]　牧玉
[illegible]　百歳

暮春

[illegible]　忠郁
[illegible]　荷兮
[illegible]　野水
[illegible]　舟泉
[illegible]　酔雪
[illegible]　燭遊
[illegible]　杜岱
[illegible]　式之

芭蕉
野水
卜枝
樂子
漢百
去來
後世
長之
長虹
麻澤
旦藻
甚笠
織人
傘下
水
仝

柳夏

酒匂
傘下
麻澤

肖柏老人の杖詩ひ花ぜ
以者も異代をひけば文雖
今もち
きこゆを者も所で吟表詩の
以文雖仁つ
雖た焼命もゆ
山路
芭蕉
一井
織人
不交
麦蕎
春泥
牛洞
泥面
夏く
玄察
生林
作者知
純一

仲夏

青竹を八重にみたらし茅巻　元輔

前茅の島陰に光る茅巻　一雙

惠子き傳るものの傳る茅巻　不交

茅巻ようてき今ぞあらまし　非紹

乃神に奉ぬ法の茅の輪　青江

百の数八千とのうの外茅の輪　合時

叫ぶ人は神の御手の茅巻　卜枝

水流て流れ来る神の茅巻　時分

ちゝめて藻家をとゝめ

八重むぐらこゝろ

こゝろかと成くはやゝの刺蓬　秋芳

松のもれて梅の一本の蓬かな　小春

松ゆゝ法師蓬ゆゝ法師　春面

百代過今年ばかりの蓬　二水

[illegible]　一笑

藤のゆをうけ豆の数こゝる　羽及

汐引て藤の色有む果ぶ　児休

見のて腹ゆ彩ゝ寸藤蔓　桂橋

井戸ゆる民の御手ちゝ　長虹

年の内ようちゝ一弓の井　本来

夕ゆを夏八ゝてゆ夏れ熱ぶ　秋水

出月の民に祈きハ夏　大ツ　一彩

月民ハ小鞠民ちゝぬ五月雨　岡白

出月の八幡民ゆ夏ゆ夏ゆ　春湖

波早ゆて

おゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ特絶ぶ　貞室

おゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ特絶ぶ

おゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ特絶ぶ　芭蕉

おゝ[illegible]ゝ

特絶ゝ民毎ゆ民て煙ゆ　荷兮

同

声ゆゝハ鶴ゝ[illegible]ゝん特絶ゝ　載人

光ゆの鶴ゝかゝハ特絶ゝ　大ツ　深況

曲ゆ民毎の天ゝ[illegible]ゝ　為餌

戦ゝ民業の天ゝ[illegible]ゝ　秀通

杉ゝきの絶ゝ[illegible]ゝ　卜枝

[illegible]ゝ民ゝ[illegible]ゝ　紀可

蘭の香や深川の夕しめりに　芭蕉
梅さくや古寺の鐘撞く人を留めけん　蕉雨
冷しやかや竹の子うり　丈艾
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]

すひのこやきしに[illegible]　[illegible]
夕[illegible]　[illegible]
夕[illegible]　[illegible]
夕[illegible]　[illegible]
山[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]

梅い[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
夕[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

芭蕉　文鱗　荷兮

仲秋

芭蕉　小春　益音　傘下　一髮　重五　玄角　東洲　椿谷　越水　芝木　陽川　舟象　旅及

素堂　俊似

芭蕉　昌長　響灯　一髮　李歌　芭蕉　玄角　舟象　芭蕉　維舟知　任口　荷兮　旅及

芭蕉　融岱　旅及　嵐蘭　玄来

仲秋

芭蕉　嵐蘭　荷兮　旅及

人に知られぬ市住まひ　燒籠
[illegible]　丈角
さて旅路云ひ　[illegible]　左津彦義
より　[illegible]
旅者て我に[illegible]　芭蕉
いとうゝ　[illegible]　一笑

雪　秋

[illegible]　巴丈
白[illegible]　昌碧
[illegible]　又ちゝひろ　銭人
山[illegible]　燒籠
一[illegible]　[illegible]

[illegible]　丈角
[illegible]　仝
[illegible]　二水
[illegible]　千園
[illegible]　芦夕
[illegible]　加生
[illegible]　[illegible]

初冬

あ[illegible]　湖春
[illegible]　尚白
一[illegible]　陽水
[illegible]

万句興行に

[illegible]　[illegible]

人を[illegible]

[illegible]　[illegible]
[illegible]　秋色
[illegible]　仝傘下
[illegible]　[illegible]
[illegible]　一雙
[illegible]　仝
[illegible]　仝
[illegible]　重厳
[illegible]　井水
[illegible]　昌碧
[illegible]　仝
[illegible]　一井
[illegible]　[illegible]
[illegible]　如及
[illegible]　文鱗
[illegible]　卜枝

仲冬

一雙　洞主
一雙　松芳
春雨　春雨
蓼芝

水水　水水
後似　後似

勝吉　勝吉
皇法　皇法
松斧　松斧
春雨　春雨
宗之　宗之
杜玉　杜玉
勝吉　勝吉
後似　後似
陰月　陰月
教五　教五

若鶴を冊

嵐深　嵐深
嵐竹　嵐竹
長松　長松

一井　春洞
合点　白淡
忠加　春洞
村後　村後

井もとの　この八月　福く
冬松　冬松
別吏　別吏
春洞　春洞
嵐深　嵐深
嵐車　嵐車
一笑　一笑
春洞　春洞
芭蕉　芭蕉

冬下　冬下
尚白　尚白
水水　水水
春洞　春洞
一雙　一雙

雛

幸中幼華丹十二句

供屠蘇白散　　荷兮

春日祭　　春湖

灌佛

端午

施茶

公巧奠

弱逸

撰虫

十月更衣

五節

退傍

詩題十六句

今日不知誰計會　　野水

春風春水一時来

白花落面浮洞水

春来無伴制題可

花下忘帰因美景

留春々不留春

帰人寂莫

巖風吹袂夜不寒
復不熱
紛紜八月蟬聲[illegible]
池塘蓮芳謝
蓮花[illegible]
暑月貧家何處有
客来唯贈北窓風
[illegible]
大底四時心総苦
就中新腸是秋天
[illegible]
夜来風雨後秋氣颯然新
秋[illegible]
遥々渡鑑初疑長
耿々星河欲曙天
[illegible]
残影燈同榻料光月穿簾
榻[illegible]
萬物秋霜能壞色
白蓮[illegible]
十月江南天氣好
可憐[illegible]
赤格[illegible]

寂莫深村夜戍雁寒市聞
[illegible]
白頭夜禮佛名経
[illegible]
[illegible]
[illegible]

昭陽人

小履鞋履窄衣裳青黛

黛眉々細長外人不見々應笑

おすき中むり　仕事の仕ちゃん

西施

宮中格得蛾眉斧不厳

吾君是愛君

ひとふり　枝の二つ　杜丹ぢ

王昭君

玉貌風沙勝画圖

なの花うもすきれぬ　の桁ぢ

一ちゃのきをすて　ひたて

竹

弱重

秋の夕の　ぶ　傳代たち　ぶ　ぶ

夜

牡丹もまん　後きの　ちゃ

已

薄暮の　ぶ　ぶ　人　角

午

水ひひよ　蓋　ぶ　ぶ

未

恨の　ふ　武　の　夕　塗

申

五月五日　節　角　ぶ

行　ぶ　生　ぶ

ぶ　ぶ

山歌

桑　の　上　を　ぶ　ぶ　表　ぶ

樹水

野鳥

時　宴　の　行　紅　ぶ　ぶ　ぶ

児弁

里出

枝　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

含咕

海奥

ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

金

川奥

秋　の　音　移　川　ぶ　の　ぶ　ぶ　ぶ

金

牛馬四足是謂天落馬

首穿牛鼻是謂人

一方八橋　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

藏舟於壑藏山於澤謂

之固然而夜半有力者

負之而走

ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

絶聖棄知大盜乃止

越人

[illegible]

銃者 大　　桂夕

[illegible]

銃者壽　　市山

[illegible]

藤房　　一井

[illegible]

師直　　長虹

[illegible]

一休　　湍水

[illegible]

法然　　蒼洋

[illegible]

山岩　　湍水

[illegible]

海岩　　古

[illegible]

名所

[illegible]　　杜國

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　湍水

[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　

旅

芭蕉

大和国竜門村にて

左

夕郷

一髮

芭蕉

陳氏

冬松

昌碧

松芳

李下

芭蕉

芭蕉

一井

滝水

芭蕉

常秀

文雄

芭蕉

常秀

芭蕉

一井

滝水

芭蕉

舟泉

蓼太

芭蕉

一井

滝水

芭蕉

玄察

一井

滝水

芭蕉

常秀

[illegible]尺一羽織八幡の[illegible]より　杉水

立春に[illegible]

[illegible]　秀句

[illegible]　蕉人

[illegible]　傘下

[illegible]　紫園

[illegible]　芭蕉

[illegible]　仝

述懐

[illegible]　汐匠

[illegible]　波宝

[illegible]　蕉接

[illegible]　杜國

[illegible]　柳表

[illegible]　芭蕉

[illegible]　秀句

[illegible]　仝

[illegible]　杏雨

肩衣に[illegible]　杉化

[illegible]　春風

九月十日玄堂亭にて

[illegible]　蕉雪

[illegible]　陸離

人のいりをたつねて

[illegible]　芭蕉

旧里[illegible]人[illegible]

[illegible]　杜國

流金遠[illegible]

[illegible]　蕉人

[illegible]

[illegible]　秀句

[illegible]

[illegible]　蕉陸

[illegible]　玄来

[illegible]　西武

[illegible]　芭蕉

[illegible]　除化

[illegible]　蕉人

夢の世にかゝる人は素顔なれ　イセ一百番

あぬ中金の玉よりもあらまし　陳氏

相思草　長恨

知一千年見と立まゝ二つ　文蘭

虫干ふゆ紙つゝみ　如　中文

さ者ゆ一時ゆ時ゆ　心棘

大宮殿黛無顔色

青雲の後素衣やゆ白の色　長恨

つゆ玉ゆ人は　ゆゆ　ゆ　尚白

まひ年ゆ

陳氏ゆ中ゆ　花帯

ゆ玉ゆ玉ゆ　ゆ　ゆ　

[illegible] 玄東

[illegible] 女南

[illegible] 尚白

[illegible] 芭蕉

[illegible] 風浪

[illegible] 小春

特撰

いなさて

[illegible] 芭蕉

[illegible] 風浪

[illegible] 為竹

[illegible] 胡及

[illegible] 松芳

[illegible] 杜国

[illegible] 冬松

[illegible] 女角

[illegible] 千岡

[illegible] 一井

[illegible] 燕糸

[illegible] 芭蕉

[illegible] 尚白

[illegible] 一多

[illegible] 一笑

十如是

おりあくう法界を空と唐水し　為弓

帰身即仏

衣服は毛糸八わんの仏ぞ　恩益

あまろひ帯の錦ぞ　衣　風深

おくろ中間ぞ　為弓

おくろ中間ぞ　為弓

おかけの宮ぞ　為弓

五節の旅風の秋の夕暮ぞ　文星

竜系ふるり酒を自由ぞ　毒酒

むすつ枝ぞ　卜枝

松竹のさらりんぞ　汐音

平等施一切

松竹ぞ　為弓

松竹ぞ　為弓

松竹ぞ　為弓

松竹ぞ　為弓

卜枝

人竹ぞ　為弓

人竹ぞ　為弓

人竹ぞ　為弓

元号ぞ　為弓

元号ぞ　為弓

元号

如病得醫

かるく内清水元分る山四るの

如清得燈

物ゝ[illegible]

秋・雜

古寺に[illegible]る柳の風　弱音

[illegible]

[illegible]　芳雪

[illegible]　左

[illegible]　春雨

[illegible]　昌碧

[illegible]　紡音

[illegible]　千人

[illegible]　舟泉

[illegible]　百相

[illegible]　重也

[illegible]　玄黛

[illegible]　絶可

[illegible]　雪梅

[illegible]　如葉

[illegible]　玄黛

[illegible]　春雨

[illegible]　未留

[illegible]　芳竹

[illegible]　尚白

[illegible]　松芳

[illegible]　蘆桂

[illegible]　利重

[illegible]　昭水

[illegible]　昌碧

[illegible]　村俊

[illegible]　卜枝

祝

[illegible]　冬文

[illegible]　重五

[illegible]　千人

[illegible]　西桂

[illegible]　傘个

[illegible]　春雨

[illegible]　仝

[illegible]　芭蕉

員外

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人
水
分
人
水
分
人
水
分
人
水
分
洞
分
碧
水
泉
洞
分
碧
泉
洞
分
碧
水
泉
洞
分
碧
泉
洞
分
碧
水
泉
洞
分
碧
水
泉
洞
分

福はうちを入るるひろひろ　碧
人無し紙屋さしてもの上に形　雪
つひたつ今に成る　結　水

若しき　紙うきうり無の水　泉
柳のうしなかまきりの卵　松芳
夕飛深おそうて　冬文
寺へ　きゝ中に雷月新　彩兮
牡丹のそれおき　法吸　丸月　芳
弓ひきたる　猪南カそ　泉
りふの又おもろさん　三歩　兮
たち　物の中は本のはし　文
公家の皮の表　泉
ふくさみちしと　芳
うこうり　語　芳　文
酒は年に　猫　芳　兮
いくまを　形　芳
上海　泉
分のもおもめ　兮
月は　猫　丸　文
竹にまをおひつまの　泉
敷法　芳
陸奥の入　芳
山里は　芳　文

十九は　兮
山里は　芳
もの　泉
さふく　兮
馬は　文
淋さい　泉
蓮　芳
はし　文
ゆう　兮
味　芳
芳　泉
次　兮
無　文
郭　泉
きは　芳
ろ　文
郭　兮
百は　荷兮
引捨　水
ゆ　全
月は　兮
月は　全

一筋みゆひ一条のきくらけ　水
神筋まつりの宮仕　坊さた　仝
業畑ふいをしろうけう　兮
出肥を多に撒よ　せ寿　仝
市判おとす神もあるき　水
通路のつんもうけて迎うり　仝
古俗ゆゆ一表のうれ　兮
代寿一五年と後おひて　仝
渉一年ろう　縫いふ　水
角の鍬筆つけふいそらん　仝
お咲ろうとんゆ　兮
天仙茶に冷食ゆ一表の書　仝
かけうひけよ青　弦　水
たくさんありて美物ちちり　仝
夕方後一きほついて　兮
弱年とき代六　水
牧のゆに芳津　弱　兮
ぬたくまよされに寿し生寿亮　水
八り仕角の立きといるまて　兮
山の塔よ和と樋よのかの　水
きつれたくとくとくとす　兮
早きり伊　鍬ケ　今
古鼓ゆ　ぬに塔よのりうち　水

あるりと高くく赤漆のそ　松　兮
寿ぎのきと舞に浮り　水
馬ゆも寿ゆ新ゆて一二年　仝
庭をつけて彩長かたくぬ　兮
三方の数ゆうと出りうる　仝
供寿のる魚を盆ときを　水
鳴一中小塔大ゆ浜城　仝
人ゆひう行寿の川岸　華

角さの魚市きハ美長
長きるあ一ゆおりみまふ
柄をきたくハきく弟
宗教法師の白代を人祭
長代表の赤とゆ格子の
彩もやまくつきぬ

角に柄をきたくきく弟
切れをとうゆ寿のお蔵　職人
ろうを後ゆ動うてゆるゆ　傘十
おるひうけあきく塔のろ　今
寿本松つゆおうて寿　人
使のゆ彩り五のきくす　仝
りれ重て物のをを寿きに　華
ゆたくうみて切ゆくくり　下

人　下　人　人　下　人　人　下　人　人　下　人　人　下　人　人　下　人　人　下　人　人　下　人

千七百年の古ろの町中
ちろりと小雨の降るを待つ
百万山ひとり所をぶのまま
四季きれい桜さひしき

深川の夜

戒人

ちらほらと雪ふる夜ひとり
仏ちひらふらの法花
夜鶴孤の影庭にめそつらん
秋をさそふ虫の多き
蛩蟲の大きさ五花さうしん
風ふかれて水ゆる市人
行くも長安八景名利の花
医の書きて門ゆる
いそがしき去年空に五岳出て
和しりせて命くちる行くこと
四季にたき去年の名を後
さ後さのもぬ命代けあり
まゆ中金行きなやうに
風ひき立て人参代つて
あつて代四塔も立て秋
物のそなきき歌まり

芭蕉　蕉　人　蕉　人　蕉　人　蕉　人　蕉　人

自ら死骸の手を結び小川にて　蕉
子を背き一つ〻て後の孤蝶　人
雑炊戸外行方なき事共　今
こせハ湖一き春氏引剃　蕉
蕉あるてふきにつもす寺院　人
あおもひあ〻神事の松ひ　蕉
人をていまく山屋の白い　人
れ潮にくり〻きの臣隅　蕉
竹手箱の冷し寂中　人
坊主のさけ春ハ淀見て　蕉
ゆやすに別れ時ら夕あ　人
別の手ハ待ら涙つ　蕉
行月氏人の堂ても消さに　人
祈りをく〻鞍ようの　蕉
秋の田をかまあるれ月　人
さん〻ハ一うの文の四手　蕉
いあり屋敷ハ本業屋　人
泊をするあ庭てかあ　蕉
ひの氏待ぎみも浦山し　人
四月をうて明き　蕉

箱に伴りあまり人の
ゆく〻まま

蕉ぎ三花の竹う六中　天津ア　其角
こおさ氏自乃ぎあう少　織人
蓮蕨の危に寄をりすり　今
飾て志〻蓮ハ妙よある　角
待ち手て結びけあ〻夜衣　今
蓮き志ひさく暁のく　人
恨〻る涙さ〻ひ〻ぎりて　今
都山藤の舞をす〻む　角
空塔の鼓意の妙法おそ　今
ゆくあうりる冬二万両　人
いとちきあを鬼人も名ぎ　今
中ゝ垂て水つきく〻の　角
酒熱き身にゆきさめ云　今
意をもつて五月の行氏　人
そのの深ハ涙考と秋の音　今
ぎ〻る氏一瓶　角
優形を城き神〻色々　今
く世ちけて弦人ハ頻　人
西王母事方彩も月ハ乃ハ　今
ゝ中ゆ人も氏寺の水ぎく　角
ゆ寄〻寄戸仮ぎ〻〻変ま　今
意氏歌ゆ人表たのまん　人
寺氏春り神ま氏ち沙て　今

角
全
人
全
角
全
人
全
角
全
人
全
全
全
嵐雪
織人
全
重
全
人
全
全
重
全

人
左
雪
左
重
全
重
人
左
丹水
落梧
全
水
左
梧
水
梧
水
梧
水
梧
水

一井炭責ハ[illegible]
こうけひの先は瓶[illegible]
[illegible]
[illegible]

七夕古

花見

元禄二六月

雜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高に八うくき　宮と　仕房
ゆみ一点を横ざまに　秀
滝を　寺の上　薮　肩
ひの所是の時に帝と　経
きらにくゝと　樹るの　蔭　晴

田野

時道中　苔代時の　角大内　正秀
時是ハ　産出　菊の　白　孫碩
菊方の　宮に　麻の　空　仝
かま　をうきつゝの　文字　秀
自然に　利根の　姿を　毎に　殺　仝
変く　芽を　うゝ　之　碩
時八　結つ　と　ん　秀
に　ゝの　本　長　碩
磐　文を　百　碩　別　碩
あゝ　みな　供の　仕　碩
後　ハ　ゝ　恵　百　秀
松の　懸る　弓　に　引　碩
自　ゝ　ゝ　の　空　紙　河　秀
金　ハ　ゝ　張　ゝ　を　す　碩
い　ゝ　ゝ　大　馬　ゝ　ら　れ　て　秀
ひ　ゝ　ゝ　る　も　蝶　に　船　ゝ　碩

仕　河　を　か　長　ひ　ゝ　ゝ　り　秀
ゆひの　山　ひ　ゝ　妻　の　入　れ　仝
千　花　ゝ　其　厩　妻　ゝ　ち　ゝ　碩
火　を　ゝ　て　み　ゝ　稼　つ　の　祖　父　秀
年　妻　ハ　ゝ　蕊　望　の　ち　ら　組　碩
月　後　の　秋　ゝ　ゝ　ひ　ゝ　ゝ　秀
葉　を　痛　人　仕　妻　を　縫　ま　て　碩
為　き　た　す　む　す　き　渡　ゝ　ゝ　秀
友　拉　の　窓　に　紙　妬　を　投　ゝ　ま　碩
口　上　ま　て　ぬ　つ　ま　の　時　是　秀
た　ま　に　小　判　か　ま　す　車　撫　碩
秋　入　ま　も　る　眠　後　の　振　ま　秀
歌　ゝ　時　も　望　月　ゝ　後　老　和　碩
ま　ま　ま　ひ　ゝ　ま　ま　く　ゝ　ゝ　秀
深　山　に　ま　ゝ　と　吐　是　て　碩
是　ゝ　ゝ　け　ま　猫　ハ　か　つ　に　し　秀
時　ま　ま　ゝ　人　所　の　白　ゝ　ゝ　碩
や　日　の　桃　ま　の　ま　ま　た　ゝ　秀
蕨　ま　に　ま　ま　ま　ま　ま　ま　て　碩
小　井　の　馬　場　に　ま　ま　ま　ま　秀

晋其角序

俳諧の集つくるまこと会はしてはいとうとして世間の
おろそかなるまことあるはまことに幻術を通やうして
その自然毫の入れい蓑はかくのごとくに作るこ
とはいまだ久しく世にうつり長しと今ようつ
やうて蓑はかくのごとくにしてはじめ五徳ハりやう
及ばざるをとこしてまたしあること彼西の
よ人は背けて人を捨てるものあるまことハ是
たるべきをいかにあんはとまされるこ
人にあらずして行ものもあはまことは是
さるハ反毫の法はあるこまれ
たまひのいれハアイウエヲようひ
おていうあんぶ声也四五一巡俳諧ホ
毫はいれあんにしてそこそ我翁の師の
行蓑哉一ろる山中にて 樵うか義を
まもりて俳はは外を入ひれいたちまち
断腸の思ひを呼ひまむ時にに曜ふ
まき幻術あり蓑哉元ろこそ集を終り
あるて接みのるハ宿者まれのまれ春
るのかをこう 説を今をて表紙飛ろホ
しけるこはさの世て書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　芭蕉
[illegible]　左角
[illegible]　元孤
[illegible]　芥焼
[illegible]　宝蔵

貪吏

[illegible]　文蓉
[illegible]　芳良
[illegible]　去来
[illegible]　史邦
[illegible]　文蓉
[illegible]　千那
[illegible]　元孤
[illegible]　左角
[illegible]　文蓉
[illegible]　修通
[illegible]　口業
[illegible]　杉化
[illegible]　史布
[illegible]　暮年
[illegible]　秀角

[illegible]　芭蕉
[illegible]　左角
[illegible]　元孤
[illegible]　文蓉
[illegible]　芳良
[illegible]　去来
[illegible]　史邦
[illegible]　文蓉
[illegible]　千那
[illegible]　元孤
[illegible]　左角
[illegible]　文蓉
[illegible]　修通
[illegible]　口業
[illegible]　杉化
[illegible]　史布
[illegible]　暮年
[illegible]　秀角

[illegible]　芭蕉
[illegible]　左角
[illegible]　元孤
[illegible]　芥焼
[illegible]　宝蔵

青玉退時　去来

乳のくるふ蛍伏ゆくさまの　尚白
かゝる蛍の宴也の渡り　芭蕉
蛍ともきゆるは船に船ばの　九郎
一月八戒八月の七　丈芝

紅葉幸網

紅葉やの長島ちらし　去角
年雲八又京もつきるか　頭孫
雲ゝやうもゆきまし　千カ
乙船の野鹿　花前

人に来と思ふ　芭蕉
弼法の法つゆ　去角
年のあやの方　長水
後屋は つき八月の　去来
芝て行年のまゝけや　今
去ゝかるはおれゝ　羽紅
やうるてみやもし　立角
ゆゝゝ人ゝのとゝ　移通
年の乳屋待の家ゝ　移川

夏

方角の西おゝ　芭蕉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玄来　丸北　芭蕉　羽孔

丈角　玄来　正秀　隆力　多角　エト　蕉紅　芭蕉　仝

法隆寺并懐南無佛

太子と法王

千那　イガ　万平　去来　丸北　芭蕉　長サキ　田上尼　尚白　半残　大サカ　何処　乙孔　北条　里東　セ、　丈角

[illegible]　丈艾
[illegible]　嵐雪
[illegible]　探志
[illegible]　芭蕉
[illegible]　槐市
[illegible]　凡兆
[illegible]　千那
[illegible]　史邦

寺堂に蓮池を

白百合や莖一枚の葵ゆらま　嵐蘭
り焼田の煙ゆらゆらと昼の蟬　乙州
り長閑き　[illegible]　凡兆
水[illegible]　今
[illegible]　正秀
[illegible]　林斧
[illegible]　[illegible]
[illegible]　羽紅
[illegible]　巴山

[illegible]

みのくより去来ありく
十つろ八一行る
あきくれの[illegible]　芭蕉
小[illegible]月半　[illegible]　嵐蘭

[illegible]　出次
[illegible]　凡兆
[illegible]　千那
[illegible]　芳良
[illegible]　去来
[illegible]

秋

[illegible]　蓮[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
かつてもゆけ[illegible]　杉風
[illegible]　孝通
人に似て[illegible]　野頭
加[illegible]
[illegible]　芳良
[illegible]　山川
[illegible]　凡兆
[illegible]　去来
[illegible]　野童
[illegible]　凡兆
[illegible]　芭蕉
[illegible]　今

杜若　玄来
胡麻　及肩
蕗薹　杉風
千那　史邦
旦藁　子尹
酒紅　化城
紫蘇　玄来
紫蘇　化城
芭蕉　化城
芭蕉　化城
芭蕉

一鳥不鳴山更迷

自彫履掛会

掛物一中村八ちるきりの山　去来
山陰や中ゆつゝ掛の下ろ苔　壁生
机もゝ仲如山陰秀りゝち　九兆

仲田氏

それぞれひとの掛ものの
仲田氏の陣ゝゝろ　花見
掛ものゝあるまちとも
かすみ大分前をまつ　晨令

春

梅咲て人の寄お海かめり　参佐

上総の山路にて

うぐひす鳴　なくて

梅の香に出る　輝八　大きさ　玄蘇

梅うゑ　ゑ　ゑ　

其角　芽ぐむ　芽ぐむ　芽ぐむ

泥棒や　英代物の　瞰つもひ　史邦
博よまる　西鶴代外や　日の養　昌房
橘輝や　下元に　西さ　きの　鈴　玄東
ち　ほ　こ　年　鈴　の　雲　の　花　イカ　萩子
松竹　元　り　り　や　と　ん　年　子　羽紅
松の　ひ　焼　ち　く　ぬ　蛤　棒　多　ミカハ　烏宗
星人の　梅　あ　く　白　四　ま　棒　多　雅雄
蛤の　春　て　良　藤　さ　り　蕗　き　ま　半或
銭　き　切　て　白　棒　く　蘇　を　ゆ　く　下　カ　、　拙夫
いう　の　り　あ　く　も　す　も　や　一　深　イカ　園北
ち　ち　や　ま　り　ぬ　と　の　取　す　め　邦頑
為　鈴　し　む　春　の　蕗　や　蕗　の　先　土芳
雪　の　蕗　や　蕗　き　き　ハ　し　て　り　鶏　芭蕉
蕗　よ　り　り　浮　く　り　て　蕗　て　り　鶏　芭蕉
ち　ち　ち　ち　や　き　ま　く　く　ち　の
あ　き　く　蕗　き　き　ま　ち　ち　ち
春　の　蕗　ち　の　蕗　の　ち　ち　ち

亡父の墓東武に中に有しに
二歳ありて別れ十年の後ふるさと
ちりぬる墓のあたりに梅植ゑ侍り
うかりし梅ぞ花つけて
その梅と尊徒ゐた地は墓
桜樹咲みされ桜は
ながらへ中ぶ男人梅の花遅う　園部
知人うめもしらとぶ人びんし　去来
ゆく行春惜ぶ中ぶの郭公　凡兆
浪人の右ふて
筆もも変花盛ぶ中ぶ　風　本蔵
暮きぶ宮中の中ぶ　イカ　長屋
きれも夏ゆくあ中ふ
ふる冷し入て
大峰やとう行夏のぶの果　芳良
道灌山よの原
道灌や道ハそ武を花ふ　花系
浮氏の絵をふて
樽千に花ちるぶの幸うて　羽紅
庚午の年春を残て
焼にうきれもぶいちすきしか、　北枝
ぶちゆ仏蓮の栖おうしけり　凡兆
海棠のぶハ海ふう花の月　エト　普水

大和行脚の時
ふる砂て花かう浮一夜妹ぶ　芭蕉
山ふ中ぶ山ふ中ぶ月の夜のうめ　桜凡
山ぶ山ぶ山ふ山ふ夕ゆ桜　智月
月ぶて郭公ぶ月ぶ　山川
海ふの夏ぶ郭ぶう山路ぶ　イカ　式之

花見嵯
世ふ変ぶ石ふ世ふ花ふ馬ぶ　乙州
変ぶ花ハ猿ふ猿の笠ぶ　芳俊

吉野水鶏春
汐ふ春ぶと越ぶの人ふ　芭蕉

去来
春ぶ鶏も別ぬ月ふ一夜
一ふ春ぶ月の春ふ月ふ　芭蕉
行ふ月の行ふ春ぶ川ふ　凡兆
九ぬ春ぶ春ぶ篠ぶの月　史邦
ふ月ぶ笑ふ遠ふ春ぶの月　義
人ふ月ふ月ふ　名知　北楽
春ふ月ふ愛ぶ春ぶ月ぶ　来
春ぶ月ふ愛ぶ春ぶ月ぶ　邦
ふ月ぶも女ふのふ月ふ月ふ　北
ぶ月ぶ女ふのふ月ふ月ふ　来
ぶ月ぶ女ふ春ぶ月ぶ　義
ふ月ぶ女ふ春ぶ月ぶ　朧

芙蓉はなびのちらぬうちにしぼむ　北

明日は先出立まれ　まれまれ　蕉

ふ夏ゆきまりの夜かな　素

此夜も盛同じ男ありて　那

さ一本つき月の雲　北

若布ゆ切ゆ月の雲　蕉

ひとり来て夢さめ後を　素

笑ふ声に二人はおもひ寄て　北

まけに乗きし船の北の風　那

さ月に雲れば雲る海の雲　素

ありまさしるみの雲ひとり　蕉

疲身はまく記憶る力　那

蜻蛉をうつて車引こむ　北

屋人を相撲場ならんちん　蕉

いち本お道の力きり　素

ゆうはに移て風をきちり　北

ありひ知ゆる死ゆひえて　那

ま天に方明月の行方　素

明治の物は比良の秋素　蕉

第月中蓼麦咲て舟を漕　那

畑のと名ふ人形の夕蓼　北

打金て毒ハ又たつぬり桂　蕉

あゆちの中のまく赤き笠　素

一藤報つて　蓼の実

枇杷の古葉ふ夜はめり　え丘　那

市中ハ雨の白ひやうの月　九　北

あつ〳〵と門〳〵の雪　芭蕉

二番州五月第十五燈る出て　去来

屋ちちた〳〵うるめ一枚　北

は第ハ弱ち元ふ元音中きる　蕉

たゝこひゆうしに赤き紙元　素

第もり花蝶こゆるゆ夕月蓼　北

蓼の芽ゆ月に行所中寺　蕉

遊んのおりハあのつかむ　素

俳空の七尾のゆハ行き　北

奥の寄ふりゆ岸の船をえて　蕉

竹人入一小川つの流　素

立ゆり屋敷を側に世ゆも　北

陽度ハ中の筆ふ俳き　蕉

西番の実と夜長ゆ夕岸　素

信中ゆ〳〵寺に之ゆ　北

横川の横し世ゆ秋の月　蕉

ま花一本の地ゆ　素

立ゆ年ふつけゆ水湧り　北

義ゆ〳〵ゆ長ゆ　蕉

東
北
蓋
東
北
蓋
東
北
蓋

蕉

素

水

蕉

兆

素

水

蕉七哀集終

芭蕉

七哀

孫頑

素男

哀

蕉

男

頑

蕉

哀

頑

西方

男

哀

自

九兆

哀

玄素

兆

正秀

素

寸残

土芳

残

芳

残

蕉

楊梅

蕉

雛

芳

哀

紅葉

史邦

邦永

羽紅

幻住庵記

芭蕉翁

石山寺矢橋のくれ瀬山つゞき国々山々を経て近江の国に入る。この国の人々の情深く物に和して人倫厚し。山川の風景佳麗にして人才多く出る。三尾の里は三井寺の麓にして、比叡の山に対し、鳰の海を前にして、武江の花洛の月に通ずるのみならず、四時の美景また捨がたし。

ある人の紹介により、この山の麓に草の庵を結ぶ。ちかき頃は、近江の人、木節・木導・木枝の三翁、かりそめに来たりて、一夜の情を慕ひ、二夜の交を結ぶ。

ある時は、粟の生を問ひ、あるときは、瓜なすびの価を論ず。

かの三翁は、俗にして俗を忘れず、俗にして俗に忘れられたり。

我、俗にして俗を忘れ、俗に忘れられたるに、

何ぞ、この翁の、我を捨ずして、我、翁を捨ざるや。

我、翁の、我を捨ずして、翁、我を捨ざるは、

翁の、俗にして俗を忘れず、俗にして俗に忘れられたるにあらんか。

我、俗にして俗を忘れ、俗に忘れられたるは、

翁の、我を捨ずして、我、翁を捨ざるにあらんか。

翁、我を捨ずして、我、翁

題芭蕉翁國分山幻住庵記ノ後

何世無隱士以心應爲賢也何處無山川
風景因人兼也間讀芭蕉翁幻住庵
記乃識其賢旦知山川 得其人而益
兼矣可謂人與山川共相得焉迺作
鄙章一篇敬之曰

琵湖南ノ國分嶺
古松欝ノ緑陰清
茅屋什據幾數間
内有住人獨養生
滿口錦繡輝山川
風景依稀入詩城
此地自古富勝覽
今日因君尚益榮

元祿庚午仲春　　慶軒具州

几右日記

[illegible] 曲水
[illegible] 雅水
[illegible] 玄素
[illegible] 元北
[illegible] 千那
[illegible] 孫頑

贈紙帳

[illegible] 孝雅
[illegible] 里東
[illegible] 乙孜
[illegible] 惣雄
[illegible] 惣志
[illegible] 元志
[illegible] 泥土
[illegible] 史郭
[illegible] 正寿
[illegible] 柳孩
[illegible] 机行

詩よ面をあり

[illegible] 北水
[illegible] 市隠

[illegible] 半残
[illegible] 之遊
[illegible] 及肩
[illegible] 尚白
[illegible] 北枝
[illegible] 去来
[illegible] 羽紅
[illegible] 何処
[illegible] 識人
[illegible] 等武
[illegible] 岩素

色紙うり書

[illegible] 初月
[illegible] 羽紅
[illegible] 留房
[illegible] 何処
[illegible] 識人
[illegible] 等武
[illegible] 岩素

同夏

[illegible]

題

[illegible]

風狂野衲

文艸漢書

正　竹書之

炭俵

[illegible]

元禄七のまきあきまつの　芭蕉

梅のうるのつとうれしき山路哉　芭蕉
ちるうつり　雑炊　ゆくゝる　砂坡
変更流と変流る過ぎ去りて　仝
上野あたりにあつる寺の亜　蕉
有の内ちゝとゝ一月のそ　仝
義こゝもるる人物のきびき　坡
かぶ一茎ゆ茎ゆ　ゆんてゝき　仝
雑をかゝゝ人ゝ　ゆゝもゆぬ　蕉
高良遠ひ　つゝ　綱摩　坡
ゆゝ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　蕉
ゆゝ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
ひゝゝ　ひ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　蕉
終有　尾　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
ちん　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　蕉

秋ゆゝ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
秀　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　蕉
町　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
門　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　蕉
市　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　仝
市　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　蕉
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　蕉
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
相　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　蕉
門　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
秋　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　蕉
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
法　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　蕉
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　仝
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　蕉
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　蕉
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　坡
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　蕉

山吟

[illegible]　嵐雪

[illegible]　利牛

[illegible]　北枝

[illegible]　雪

[illegible]　牛

[illegible]　北枝

[illegible]　雪

[illegible]　牛

[illegible]　北枝

[illegible]　雪

[illegible]　

[illegible] 水
[illegible] 屋
[illegible] 蓑
[illegible] 水
[illegible] 牛
[illegible] 蓑
[illegible] 屋
[illegible] 水
[illegible] 牛
[illegible] 屋
[illegible] 水
[illegible] 牛
[illegible] 蓑
[illegible] 水
[illegible] 牛
[illegible] 蓑
[illegible] 屋
[illegible] 牛
[illegible] 水
[illegible] 屋
[illegible] 蓑
[illegible] 水
[illegible] 牛
[illegible] 蓑
[illegible] 屋

[illegible] 牛
[illegible] 水
[illegible] 屋
[illegible] 牛
[illegible] 蓑
[illegible] 水

百韻

[illegible] 利牛
[illegible] 牛
[illegible] 狐
[illegible] 屋
[illegible] 牛
[illegible] 屋
[illegible] 牛
[illegible] 屋
[illegible] 牛
[illegible] 屋
[illegible] 牛
[illegible] 屋
[illegible] 牛
[illegible] 屋
[illegible] 牛
[illegible] 屋

牛
坡
屋
牛
坡
屋
牛
坡
屋

一つ　ありて　絶の　まき　編　屋
絶さしに　蒜　もき　絶の　月　波
あれすきと　素の　塚あり　秋あひ　牛
目を　絶て　義に　すき　絶の　夢　屋
又たの　て　異流　たり　ち　うち　波
かき　絶て　中　巳の　夕　まる　ろ　牛
入あり　人に　遠　雪　成　出　れ　屋
すち　ひに　本　絶　絶の　絶　川　波
四　雪　屋の　ゆ　雪の　ち　つき　牛
絶　と　ん　と　ほ　て　波　ち　き　れ　屋
水　幕　緑　ま　る　無　什　波
ち　絶　川　て　絶　糧　不　牛
尾　絶　に　す　る　海　の　ち　よ　く　屋
雪　ち　る　る　ち　絶　る　の　き　波
入　あ　つ　つ　月　絶　ち　月　牛
拭　立　に　お　と　絶　雪　雨　ひ　す　る　屋
粽　い　ひ　つ　の　る　羽　か　る　ん　ひ　波
大　水　絶　絶　に　湖　の　砂　の　け　て　牛
絶　年　菩　提　ち　れ　四　杤　の　末　屋
安　食　に　弓　回　ム　の　絶　を　絶　波
九　ち　す　り　湿　を　ち　ら　ち　ム　牛
波　ち　も　絶　立　す　に　め　ち　く　ん　屋
ち　ち　ち　ち　の　ち　ち　ち　ち　ち　波

早　競　五　川　礼　川　の　ち　つ　き　て　牛
ゆ　ち　ち　ち　お　成　波　の　機　り　し　屋
高　に　ち　ち　彩　ち　ち　絶　絶　を　雪　波
ち　ん　ち　ち　ち　る　八　雪　の　ち　ち　牛
丁　草　に　仙　臺　絶　絶　口　か　ち　て　屋
祈　祝　う　勝　て　出　る　良　ち　る　雪　波
名　月　に　医　絶　ち　ち　義　ち　ち　つ　て　牛
ち　ち　ち　る　継　ち　ゆ　き　ち　の　ち　屋
定　ち　ち　と　ち　絶　に　数　ち　て　ち　波
り　ち　ち　絶　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　牛
異　高　の　絶　に　出　月　成　ち　ち　り　屋
義　月　ち　て　絶　ち　ち　絶　波
藏　も　ち　波　絶　屋　の　ち　ち　ち　牛
門　走　ち　に　町　絶　お　絶　屋
波　ち　ち　一　ち　の　絶　に　ち　て　波
ム　人　あ　ち　ち　り　ち　き　ち　華

立春

芝　葉　に　ち　ち　や　ち　絶　絶　神　波　芭　蕉
赤　ち　ち　や　ち　い　ち　ち　ち　ち　ち　松　猫　子
ち　の　絶　ム　ち　ち　ち　ち　ち　絶　杉　絶
摩　や　絶　ム　丹　波　の　絶　ち　ち　ち　玄　来
刀　き　絶　絶　ち　つ　ち　て　ち　ち　ち　の　座　ゼ　西　秀

いそう半夏生の花の白ひの様　大サカ　洒堂
合つゝ本の花白ひの様　俗水
様いまれつ延ばる様　水夜　浜園
月下にも中の初戸舞ふ様　那屋
神り新戦今ゝあちとつまれや　利牛
長松う狩の名て事ゝ四変ゝ　北枝

梅

梅つ花つ色ゝ苔の海ゝ　多治
梅咲や白の様花のよきまうて　曲翠
梅う様鶯に立ゝう神ゝ　支考

宮ゝ中ちと合ゝて

梅ちゝや糸の光ゝ白ひ　イカ　士芳
梅咲て湯殿の岸れ垂ゝう　利牛
糸垂ゝの見ゝ様う梅のひ　落力
みゝに咲ゝ花ゝ梅の　北枝
梅ハ雨ゝ降ゝ妻戸ゝ　杉風

ちゝ白ゝ花の七ゝ
ゝ中ちを立て

ゝ立ゝ花ゝ様ゝ　宜角
七ゝ中梅ひゝ花ゝて　北枝
ゝ中ゝ葉つひゝに　仙枝

洛ゝう文のゝに
鶯月一ゝ花つ中ゝ　太素

大系や鶯ゝ鳴ゝ出ゝ　傳　文考
鶯月ゝ花ゝ咲ゝ　仙花

原川の今ゝ

ゝ泉ゝ中ゝ年ゝ鶯ゝ　利牛
十ゝ月ゝ川ゝ中ゝ　大サカ　之道
梅の長ゝ神ゝ鶯ゝ咲ゝ　北枝
梅のゝの人つ泊ゝ　宜角

鶯

鶯ゝ泊ゝ鶯ゝ　龍生
鶯ゝ花ゝ葉ゝ一つ人　其角
鶯ゝ鳴ゝ花ゝ　梅震
鶯ゝ中ゝつハ　北枝
鶯ゝの一ゝ人　利牛

柳

ゝ柳ゝ中ゝ梅ゝ　蹴春
情ゝ人ゝ一月ゝ柳ゝ　素堂
ゝ人枝ゝ柳ゝ　北枝
ゝ中ゝ長ゝ柳ゝ　一瓢
ゝ長ゝ長ゝ柳ゝ　利牛
町中一ゝ柳ゝ　芭蕉
傘に柳ゝ柳ゝ

椿

ゝ椿ゝ人ゝ椿ゝ　孤屋
枝ゝ椿ゝ　蹴春

花

曲翠　龍金　支考　半蛾

素堂　去来　孤屋　荊口　斜嶺　小枝　湖春　支角　龍金

芭蕉　杉風　丈芳

上巳

沾徳　松濤　其角　利牛　孤屋　芭蕉

芭蕉　利牛　孤屋　半蛾　全

大ノ智月　大井力之道　沾車　越ノ名　普全

サガ　芭蕉　子珊　恕雄

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五月雨中傘に竹をうゑ人形　女角
さゝ一人愁てみたる中　青の風の色（ナカ）　西童
ちるまた此すゝみうゆる中　松濤
文り彩〳〵口ずさむ　一株立柏　嵐雪
みちのやハ黄花青子かや苔　仙方
性あのちゝぬき　鶯〳〵拾うか　素牧

友雄

蓋松をみうけて　町のあつさ　肝高
松葉中ゝ苔ゝ苔一　苔のまめ　鉢嶺
二三素絲ハ〳〵もゆ　長サキ　夢町
ちけ山の力及ハぬ　ゆうさ　樣雖
すゝ路中ゝ松ゝ茶の白ひ　芭蕉

此句八清四郎の後に

五月雨

五月雨中　蘆一　鶯〳〵　九太郎　素彩
五月雨中　苔中　淀川　大和川　松濤
五月雨に小舟を　揚〳〵　ゆかず　政牧
五月雨中　秀の茶より　蒿蹊　嵐蓬

此句八蕉庵より書てつゝぬ

五月雨中　彩ゝ　松ゝ　ゆうの〳〵本　伐水

涼

川中の根太に　夫ろふ　涼〳〵　芭蕉
自彩ゝ　苔中　彩ゝ　光　サ　この事

涼さよ　嫁をそ　ゝ　ゝ　水　長サキ　夕七
彩所を　ゝ　ゝ　涼〳〵　探芝
岩根八す　まそ　涼一　立庭ゝ中　智角
涼一　きを　ゝ　初　ビセン　瓦峰
涼　ゝ中　涼　ゝ　去来
夕　ゝ　ゝ　ゝ　野坡
ゝ　涼　ゝ　素堂

杉風
匹秀
日東
嵐雪

詩六
智角
小觀
乙刀
丈芝
仙方
楚舟
殘香
苔有
怒誰

樣ゝ　ゝ　ゝ　

秋

名月

月見

月前

月下

月中

月明

月夜

月出

月入

月の影

月の光

月の色

月の雲

月の波

月の桂

月の宮

月の都

月の舟

月の桂男

月の桂の男

月の桂の男の

月の桂の男の

月の桂の男の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人丸の古事をとりて
はしらの先にいさんゆ
えをかれし歌もあるべき
なれども
冬の月
里東
おの三の八幡川の産おと
しらしらとなる
しらくもを見て
あくよ明し
歌
ちるまに春を
待てあるらん
馬山
俊雄
利牛
賈山
俊雄
文芳
小枝
詩六
湖夕
乙刃
素堂

朝寒
かぶしきの袖にあらそひ
を重ね
紅つの
四方
白
樽の
夜中
形
酒
歌
古の
山代
蔵
爆掃
爆
すす掃
爆
山代
蔵
羽公
呂丸
苞蕉
許六
智月
之道
丈芝
残香
貞南
全
苞蕉
万平
小枝
蔵重
智月
杉風
雪也
智月
祇友
雪也
壮枝

芭蕉翁の句に
いうかたはしそうてたに
瓜をてんぷらにせんとて
りまよ蓋とあるも此ひとつ　素堂
秋の夜屋上の板うゝ離れしう　其角
おんまてつ因尚ゝ雲　孤屋
秋雲に日傾ぬる頃ゆて　今
月のかゝるゝ四方　北川　角
祖父うゝの大福も庵すこうゝ　今
つゝひ道にハ水たまりあるもの　屋
下水ハ水流の糞穢さつれて　今
物こゝの蚊ゝ蚊ハをゝきゝ　角
芝殿のるきて作る八ツかう　屋
裏安ゝす　蚊の井　角
四の畔にお苗把て植て　屋
道先ゝきゝ編笠の弄　角
ゆ町のゝ出さ手ばゝ物　屋
蚊に物ゝてゝたる林の月　角
秋飛に蛙のさゝれ動さゝ之　屋
乃ゝるゝ伐あゝるゝ　角
夏之の物洋植のゝゝゝ　屋
むゝのゝるゝゝ蚊ゝて　角

いさん紙おき金紙つゝひ乃　今
宮の絹のゝゝゝき肉　屋
夏ゝ乃ゝ尺ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　角
ゝゝゝと云ハ傍ゝ　屋
年の夏みゝの花ゝ房ゝて　角
年ゝゝきゝゝゝ花を待　屋
天ゝゝゝハゝゝ沙ゝの年ゝ　角
稈と法ゝの花前ゝ　屋
年ゝゝ一ゝのゝゝ　角
ゝゝ沙ゝゝ　屋
我ゝゝて夏ゝ泊の紙　角
上塗ゝ沙ゝて　屋
小雷痍ゝ云ゝて云ゝ　角
けゝゝたゝゝ清ゝ　屋
祈倉藤ゝ出て陪　枕陳
のゝゝゝゝゝ今ゝ未　
陸行て冬待ゝ　
天野氏真行
過ゝゝ拾ひゝ乃ゝ　枕陳
ゝんゝゝ出ゝ　
入自ゝ家ゝのゝ　
嫁ゝ行ゝ　利井　
　　

牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧

牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧　牛　牧

芭蕉

郭公声を聞川てを安

振売の乃ゆきかよう兄民達

降てハ水くゝ時雨すゝ新

蕉風ゝ樹の小芭を引ゆて

花さかり山み月をみるゝ新

時雨の俳を絶さ夜秋の風

剃本の世をきゝ西の赤蕉

須の老面つきくみる老蛾て

年まゝ又冬ハ二十ゝ月

ひくゝきハ話ゝ軍のたゝの之

浦ゝ来のゝ之に義流もゝ夜

明ゝ雲雲松虹成吟けゝて

肩癖にまゝ湯屋の二月茅

牛　牧　孤屋　剃牛　牧　蕉　牛　屋　蕉　牧　屋　牛

上毛紙千枚刷もうハの兎
馬ゝ出ぬゝハ月て出十る　蕉
海鼠の七ゝ七ゝ三ゝ三ゝて　牛
焼につゆる五十石　弘　屋
古俳の蔵発もを掛月ゝ　蕉
砂にぬゝ三ゝ三ゝつゝ三ゝ　牧
形畑の素も形つゝ空ゝ上　屋
吹とゝ三ゝ三ゝ三ゝうに形　牛
川蔵の年一代出ゝ三ゝ　牧
五代の古代為き　蕉　牧
千始ゝ月の月一ゝ三ゝ三ゝ　牛
技出　弟代道ゝ三ゝ　屋
第用に法世を三ゝ示代表　蕉
文ゝ三ゝ形一ゝ三ゝ月　牧
三ゝ三ゝ三ゝ三ゝ鳥ゝ三ゝ　屋
会業代ゝ月む地の代先　牛
時ゝて情業会の信ゝ月　牧
為を為ゝて保ゝ為ゝ月　蕉
馬ゝて秋の鶴の尾ゝ三ゝ　牛
報の吟ゝの信を月ゝ中　屋
ゝ三ゝ三ゝ素の猿猴の吟為　蕉
月三ゝ月ゝの三ゝの猿ゝ年　牧
素ゝゝ三ゝ月中内ゝ月　屋

偏業のゝゝを掛八業風　牛
重の松ゝ月ゝ三ゝ月為ゝ一　技
ゝ代出ゝ月ゝ月ゝ月ゝ　屋
下青ゝ三ゝ月ゝ月ゝ月ゝ　蕉
月ゝ月ゝ三ゝ三ゝ三ゝ　牧
月ゝ月ゝ三ゝ三ゝ三ゝ　屋
業ゝ月ゝ三ゝ三ゝ三ゝ　牛
悠業代ゝ月ゝ三ゝ三ゝ　技
ゝ三ゝ三ゝ三ゝ三ゝ三ゝ　屋
ゝ月ゝ三ゝ三ゝ三ゝ三ゝ　牛
ゝ月ゝ三ゝ三ゝ三ゝ三ゝ　技
ゝ月

續接表

八九万空て空てる物うの　芭蕉
表外遠の富　浮る夢　沾圓
和尚ゝる場ゝ海の風情　馬莧
片ハとゝつく嘆息ゝ　甲圓
きのふゝりかゝゝ月の色　沾
物考うゝて　孔ゝ　蕉
陽勝まゝハ陽よゆれゝ　甲
孫ゝ　孔ゝ　紅女の信濃　莧
紅葉ゝ　孔て浮ゝ　刀　蕉
爆ゝ　ハ　孫の限　沾
絹蕉のかゝ　夢ゝ　莧
十ゝ　ゝ　ゝ　甲
紙の紫ハ　ゝ　沾
ゆゝ　ゝ　蕉
ゝ　ゝ　甲
ゝ　ゝ　莧
ゝ　ゝ　蕉
ゝ　ゝ　甲
ゝ　ゝ　莧
ゝ　ゝ　沾

芭蕉　作圖　作　芭蕉　作　芭蕉　作　芭蕉

水のゝ池の中より及ぼりて　文考
簾牛き〻〻窠をいあく　恃紙
終ゆゆうゝとやて考は月　蕉
過ゝのうさに亜〻ゝ此　考
金ちきひ一首てまきる銘の点　紙
至毒紙ゝ七せを本水ゆゝり　蕉
解ゝ五て吏もセ月ゝあゝり　考
中おより紙紙の右ゝ右　紙
新ゝのハ〻ゝ(ゆゝ)振　蕉
一き初歳ゝくせてたつめ　考
きゝ人生まゝ歳の紙紙　紙
山ゝつゆゝ方所の月　蕉
紙ゆゝ留の人紙ゝ付号　考
水孫光ゝ陽紙ゆゝ号　紙
又て連ゝ紀年ハ紙の紙ゆゝ　蕉
為ゝちゝゝたいゝゝ歳ゝ　考
ちちゆの又要ゝちゝ北にゆゝ　紙
ゝちゝ紙に孫をちゝのゝゝ　蕉
後紙紙紙紙ハ今変屋変ゝ　考
空歳のさゝもむさゝもゝ一ぬ　紙
大七つ今ゝゝゝゆゝ号ゝ孫ゝ結　蕉
きゝゝき〻ゝけ〻中の涙屋　考
孫ゝ紙の孫をハゝゝ出ゝ荒　紙

考紙世為ハ仁条紙他　蕉
紙ゝも青の歳き有ゝて　考
未新紙を屋紙正西　紙
定ゝぬ曙紙ゝ石ゝ点ゝめ　蕉
蕉所のゝ年ゝけきゝの変　考
多紙をつゝゝきゝ寸松紙　紙
大ユつゝひの考ゝきゝゝゆゝ　蕉
蕉橋もゝハゝゝて紙ゝ　考
ゝ月て命の中を探あゝ　蕉
山ゆゝり紙生ハひの考ゝて　考
紙の紙つ紙きく紙ぬ孫　紙

野盛子
支考

今ゝ有歳

今ゝ有八月十六日紙ゝ紙ゝかゝひ有ゝ
ゝ高方紙紙山にかけて元宗紙水の紙を
ゝてむきれゝゝすひの紙紙紙ゝりゝ年紙
席をゝて紙ゝ志ゝ敢て考ゝ紙人
ゝの紙遠ゝゝて紙紙ゝゝを思ゝ紙ゝか
ゝ有ゝゝゝ今ゝ紙ゝ人を直ゝゝんゝゝ
紙ゝ紙ゝゝかゝ紙ゝゝ紙ゝを求紙今薄紙
山紙ゝてゝひ水ゝゝゝを紙ゝゝゝゝ
紙ゝゝゝの紙ハ紙ゝの考紙紙ゝ紙を

かさそてこしハみの月のあきのあハひを送りて
行雲ハ山中に今の夏の夏ハとうひ海の曉時雨
旅舞て雲ハ祇園の深みつもるかなりとあり立ハ
かしてハ此山の姿をしれりんとあり立ハ
うく御ハ此の海を意ハかくて又ハ四季ハ
又ハ成海を雲ハ多の雲ハ雲の雲をもとも本者ハ
書居氏をいくとして俳諧ハ俗ハ俗ハ
俗ハ俗ハ俗ハ俗ハ俗ハ俗ハ俗ハ俗ハ俗ハ
巻ハ山ハ松を分る雲ハ山ハ海ハ梅ハ雲ハ
かつ雲ハ山ハ人ハ山ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ
ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ
おのつからハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ
元禄ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ
多ハ此ハ山ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ
しを文ハ山ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ
此ハ山ハ人ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ
ハ山ハ人ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ
うハ人ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ
ハ人ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ
雲ハ人ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ
雲ハ人ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ

春の夕ゆかりの宮殿高き
若らくろるを古酒の門をし
墓の人殿ふを通いろ
対者一みを第ものを自の書
ものゆ〜〜を殿上菊庵
出殿つる口楽の角殿に系町
う殿をゆ〜〜表一岡
今の方に殿を見うに橋の上
大きな殿のゑんよりゆふ
雪殿をもるも廉おしもて
殿ゑけつ〜〜夜桃社下

春の梅

沼石殿のうゑ殿中和橋
薄殿かに又ゑん自うゑ和きう
殿に仏殿殿内も出よ和きう
ちう遠中赤の殿ゑ〜〜おの山
角口年一人をおゑ中ひう夜
ひ茶て井ゑ部の年ゑ
茶をある酒御ゑ
文表ゑ殿ものを殿めきれる
ひひつそ〜ゑに

酒殿御ゑ殿のものゑよ宮の物

支考
沾徳
猿雖
陽和
ひ及
本芭
沾船
ゑ殿
卓袋
芭蕉
洞本
文象
徳也
惟然

猪に〜て陣ぶれ〜〜
人殿ものを〜殿ハ〜和ゑ
ゑ〜ゑ中年の茶の小西
ものゑ中ひ殿出〜世中ひ
ゑ〜ゑ中ゑ〜所中ものゑ梅
殿ひをゑ〜ゑけゑ〜ゑ
殿殿中ゑ〜ゑ殿ハ和梅
二の殿中ゑ〜ゑ四殿の泉
義年殿出方に殿ゑ梅ひ

四家

ゑん中の石ものゑん山ゑ〜〜
殿つ〜ゑ中殿本出十石
山門にゑりの〜殿ゑう
ゑう殿の梅ゑ〜ゑ〜ゑの陽
ひ茶ゑ茶て殿食人人ハ推
ゑれゑ〜ゑ殿殿ハ殿の茶
ゑ〜ゑハ殿の茶ゑ中殿の
一りハゑ殿の殿て中ハ殿
八ゑゑ〜ゑゑ梅ゑ茶

若草

陽殿中一茶ゑ殿ゑ〜ゑ
ものゑ中ゑ沾殿ゑ茶
夕殿の殿ゑ宮ゑ〜茶〜ハ

支考
沾徳
猿雖
陽和
ひ及
本芭
沾船
ゑ殿
卓袋
雪屋
徳前
一相
如雪
少年一琴
卓袋
沾國
仝
嵐雪
曲年
孤屋

一ものゝ花梅ハ春きさらぎ

梅　付柳

春もやけ　きさらぎの　人間　梅　芭蕉
春雨　大根　梅　柳　北水
梅の　ゆるび　葉　光　北角
望　坊に　確　梅　梅の　閑房
投入　梅　ゆるハ　梅の　良品
病　梅　梅の　梅の　芳良
ゆさら　華　梅　梅　万子
春　梅　梅の　梅の　魚日
白梅　梅　梅　梅の　千川
藤　梅　梅の　梅の　大丹

天神の社に詠て

月　梅　梅の　梅の　楚水
それに　梅の　梅　千那
梅　川　川　梅　宗元
ちゝ　道　古　梅　雲也

まち　柳の　柳　馬の　九節
梅　馬　梅　柳　巴文

鳥　付魚

春に　春力　春　春塵　北角
春　北ハ　塚　みの　史邦
春　春　春　春　勢自

春　柳のゝ　ろ　春　芭蕉
月　霞　ひ　ひと　雲　去来
春　春　春　春　春　伽生
春　月　月の　春　月　傘下
春　春　春　春　春　長虹
春　春　春　春　春　北寿
春　田　春　春　春　峰花
春　春　春　春　春　梶市
春　春　春　春　春　河鯉
春　春　春　春　春　鶴軍

芳野山西行の跡

春　春　春　春　春　土芳
春　春　春　春　春　園水
春　春　春　春　春　子珊
春　春　春　春　春　山碎

陽明に　ひそひて

白　春　春　春　春　其角

春　草

春　春　春　春　春　西秀
春　春　春　春　春　氏鄙
春　春　春　春　春　羽紅
春　春　春　春　春　蘭蝶
春　春　春　春　春　閑清

春ひや梅のおさなめうさき　車来
見さく咲そめ初も花ゆさし　荒雇
流よりあろひ花は華うれ　馬莫
路さく〜土筆の智や歳のな　松仮
ゝ倒れ形ておさく大拾　乃待
よ藤や笑ゝ山の初うゝ　正秀
味噌部屋のもひ所ゝ三年　夕可
ゝ代彩よ梅の花咲牡丹ゆ　一初
たんかや笑ひ八ゝ〜八百屋　国為

梅衣　才知坊

我新や白ゝ梅の衣　探丸
うき色ゝ立て梅の磨袋　支考
ゝ咲るゝの星ゝ付ゝ梅ゝ　三百

白日ゝ

ゝ帰りて朝ゝ新ゝ〜ゝ　許梅
きゝ〜ゝ初ゝ咲ゝ〜ゝ様の用　惟然
梅ゝ花ゝ〜ゝ梅ゝ〜ゝ　閑梅
ゝ咲ゝ〜ゝ梅ゝ〜ゝ初梅ゝ　デハ車行
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ　李素

春雨

張ゝ〜ゝ〜ゝ春雨の雨の角　澤雄

李耕

明後の〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ　東帝

苗代や笠縫おさくの宵月夜　牡蠣
み初の田を五尺ゝ〜ゝ　一学

梅　才知坊

白梅や米ゝ出ゝ〜ゝ水の色　松雪
金猫ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ梅ゝ　林我
我見ゝ〜ゝ梅の上枝梅の　李笑
梅ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ　如陽
ゝ〜ゝ〜ゝ梅ゝ〜ゝ梅の梅　丈角

白梅や笠縫おさくの宵月夜
み初の田を五尺ゝ〜ゝ

梅の花ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

小梅ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ　角上
梅ゝ八梅ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ　砂丘
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ　汐鳥
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ　李坡

山吹や塔ゝ十ゝ〜ゝ　園梅

四郎ゝ人ゝ〜ゝ〜ゝ

山ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ　洒堂
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ　皇芝
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ　前ゝ

去角

山の端をちらし〳〵あへる夏の月　長七郎　醫町

夏雨有感題

おろすまき雨はたそかれ山の色　前口
咄きく湖る会々　乃徒
夏の雨庭地ぬる　遊力

あよ〳〵と生ちる武蔵の
蔵底を春ゝ陽

まさの雨花の　支考
夏の雨光ゝ乃人　拙角
清きの雨よ　卯麦
沙つ〳〵雨　卯藤

沙弓

のあり帆の　去来
月川に　閑指

雑春

世代や　許六
ゆ中や　卯藤
あの雨の　文芳
月の　酉力
蓮の　万平
夏の　苔蘚
夏の雨の　坊水
夏の雨の　正秀

仙尺の　仙化
川の　支隈
山月庵

歳旦

ゆ加や　武仙
遥遥　百歳
蓬莱　尚白
世方の　圓蕉
山峰

行よりて衣裳を顛倒す
いとは遠の　千川
元り　芭蕉
人り　其角
清の　去来
様の　卯角
万年　玄来
和　土芳
神　卯藤

みゝ清きけて
元の　横雲
万年　考木
雪の　此麦

蕎麦の茎くれよ色尾の鯛のそり　耕雲
鉢の笑の芋を煮を焼く初の月　庵桂
初夏や一番ハ人棲の白比丘尼　古川
枇杷の葉の根本一之初うぶ　斜嶺
世の業や蝶ハ何れも表元氏　山海
何れも大きく一件の初り新　任行
元り市　面白ちき　稲の立器　竹戸
我者ハ初りに続を考えり　芭蕉
方も果や解き初く年寄り　作圃
出子社をのクホ初くり　蕉　茶　圃角

郭之

空の色をさそ山や時　貴角
市く光ハ時や湖水のさ　丈芝
ちく清や紅を赤ハ杜鵑　芳良
時を以ぬ表セヨ一　移態山　支考
以清の名や七り以人時　如雪
蕉の形や　む空や　芦本
隆くも涼ぬ方ひう　郭之
時ハ石山秋蕭さて以紀の
以て通りくるや
る秋むさの雲や中　中くり　作圃
其外芝も

楼や　クホ出りの　園指
星一社ぬかりぬ　面白之　附録

園中　二句

此中社古墓ハ人を　稲　の影　牡蠣
ま切れ光本ハ稲の影　千川
雖ゆ中上ちくさる　秋の系　素行

鶴山寺之百合

百年や　ぬを　百合の影　支考
山り光をの人を　時や　かさ　尾臥
冷汁ハひ之年一　杜ろ　作圃
ちちろ一　水ぬ　ちさ　宇多郡
夜茶や　茅ゐの　ハ光人　根　柳

芭蕉庵の月見

三日や月ハ人りれも　作圃
夕都や　庵て　芭蕉
夢ぬひ　ちち　ち入　七人　雅茶
菌の影ハ　水の　地蔵
蓮の葉や　ちき　水　白雪
岩ゆ一　芭蕉　蓮の　滝　良品

仏

彩雲に　て　海一　仏の土　芭蕉
雖ぬや　神之　入て　至内

ちんん

藤ちのゝ清水ハ世され此春ゝ　眼法

早苗

糸八千も角の田植のゆゝ中　長年　卯七

さとゝめよ清て中ん苗の数　園指

ゝゝ苗の植ゝ苗ゝゝ苗ゝ　魚日

田植苗まてゝ新の鄙ゝ　重分

一田ゝ初めて千水の音　北枝

苗のゝゝ苗ゝ苗ゝ苗ゝ　支考

蛍

蛍来の壁ゝゝゝゝ　併六

ゝゝ月ゝ叫の苗ハ明ゝ　甘蔗

網源

源ゝ千牛船ゝ行義つひ　半残

手ゝ筆ゝ彦蛍ゝゝ　惟成

源門の彦ゝ市ゝて

ゝゝ千ゝ千ゝゝ　史邦

源ゝ千蛍ゝ蛍の絶ゝ乃　重翠

石ゝ千ゝ蛍ゝ　松年　長サキ

源ゝゝ手ゝ尾船ゝ川の中　万平

優長ゝ百

蛍ゝ千中ゝ源ゝゝ　砥堂

源ゝ千蛍ゝゝ　支考

生ゝ藤を移ゝ千ゝ源ゝ　重甚

芭蕉ゝ百ゝ苗ゝ　凝力

源ゝ出ゝゝ千ゝ　今

ゝゝ中ゝ千ゝ　玄来

ゝゝ千ゝ千ゝ網源　正秀

蛍ゝ千ゝ石の上　土芳

蛍ゝゝゝ源ゝ千　我角

織人の時ゝ苗ゝ　里圃

源ゝ千ゝ織の時ゝ

抜源ゝ百ゝ蛍ゝ世ゝ百ゝ

盛夏

ゝゝ千ゝ四ゝゝ　世蕉

千ゝ月ゝ元世の千ゝ　万平

蕉医者ゝゝ千ゝ

蕉医者ゝゝ千ゝ

正秀

元葉の門ゝ千ゝ　乙孔

燥ゝゝ千ゝ　想阿

茂日　ゝ源ゝ千ゝ　素堂　ゝ入り

ゝの千ゝ千ゝ　我猿

ゝゝ千ゝ千ゝ　印花

燥ゝゝ千ゝ　卓袋

粉ゝ千ゝ地ゝ千ゝ　星爽

立ゝ千ゝ千ゝ　沾圃

竹の子

[illegible] 丁巍

[illegible] 曲翠

五月雨有感

白露中きゝも[illegible]枝白の中ニハ 不玉

五月白中 [illegible] 葉の畑 芭蕉

[illegible] 陸 [illegible] 作圖

[illegible] 傘 松俳

[illegible] 蓬の [illegible] 池の芦 芝蘭

[illegible] 水 晩鶴

[illegible] 傘 [illegible] 一町 圓水

蟬

[illegible] 蟬 正秀

[illegible] 姫の夢 姫故

[illegible] 夢 乙郎

[illegible] 晩鶴

かつを

[illegible] 絮拾

雜文

[illegible] 杉地

[illegible] 荊口

[illegible] 真

[illegible] 文烏

[illegible] 芳宇

[illegible] 水鶏

[illegible] 馬莧

[illegible] 京華

[illegible] 時幸

[illegible] 水鶏

[illegible] 蕈

[illegible] 雅岱

[illegible] 支考

[illegible] 芭蕉

[illegible] 芭蕉

[illegible] 扇

支考伴

西吾　加行　秀法　多日　別指　泳梨　不玉　配力

支考　宝月　如真　宗比　本枝　利合　丹枇　里蔵　正秀　文州　景松

尤林　園水　山城　伊國　番茂　重友　泥芋

[illegible]

佐國　馬莧
里東　牧臺

[illegible]

芭蕉
仝
樣雖

七夕

[illegible]

惟然
涼葉
東湖
佐國
乙孤

[illegible]

寥川
尤次

秋草

[illegible]

柳梅
蘧友
濁子
馬莧

一節ハ[illegible]

[illegible]

烏栗
支假

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一ぞの秋を年毎に年ごとに人の
秋をきき時をわすれず春の
百年をいのるいのちを
文政の年を祝ひて
とりやすく縁をあひて
喜の年西九十の
美

翁年二百十九も悲形一
百日一年年々白髪の
悲歌鶴の千年一年の
野亟屏

ひとりさき年ごとに山の
後ろ一度の咲年ごとの
芳秋

虎溪年芳花ゆく秋の
行秋を数日の糸は服
行秋や月を虎けなる
雜秋

立春十日おつひ年そ
春ゆく社の春仏人れ年
ゆく春の春ちろ
後ゆく春れ秋ゆく秋の
年ゆくひとの後ゆく歌

支考　雁岱　玉府
汀国　苔木　溜子　支考
瓜峰　文州　牡水　乙孔　苔蕉
之道　周友　畦止　四友　萩子

ゆく春の年ごとに
秋の春も焼味
本場を馬ゆく
俳歌をおって
西で旅者の
生おのびゆ
ものの年の
時雨を松
時雨を
春の
時雨を
時雨年
時雨年

万子　来の
宗波
苔蕉
井筒　砂枝　苔蕉　李治　馬莫　井筒　園指　空牙　落有　鈴口　井萩

元延年酉之秋冬九日　　支考

素堂苗園之源

芭蕉　　沾圃
京角　　北枝
拙庵　　沾圃
沾圃　　号良
馬莧

草付木

水仙中練塀ゝ　　曲翠
曽清ゝ峡中紫ゝ　　氷周
水仙の切のゝ　　惟然

芭蕉
車庸
土芳
支望

山茶花の葉の　　沾徳
一葉小ゝ　　方沾
山茶花八月ゝ
ゝ梅のひゝ
山茶花ゝ

冬川や舟の岩ハ焚き出るる　雅然
葉ゝうゝはさハりまき舟の柴　松阿

本林坊宗沈の庵を尋て

ちひさき人ふたみ　芦原　イセ　一遍
柿さく　青き　秋　中　世市　杉阿
牛の角　遠ハ柿　月の　松雄
冬桜　ちる　年　みて　乃徒
芭蕉よりうつたる　時　冬　利牛
ハ柿　てのまへ　今　柿の　支考
ふるゆ　きもん　芦　芦原　芭蕉
本林や　岸中　多　牛の　杉阿
赤ゝ　中　川田の　時の　旅　惟然
田中　芭蕉　ちゝ　汐　牛の　蟄生

凡兆宅

元禄　猛　芭蕉　芭蕉
元禄　鶏　利合　利合

島台いを

ゆゝの　あを　白空
蟄　漁　白空　白空
退　て　芭蕉　芭蕉
小松　庵　芭蕉　芭蕉
入　内　冬　芭蕉　芭蕉

たつ　鶏　夫　退　り　花　こ　名　丈
ひ　ひ　ま　ひ　へ　き　生　乗　亡人　剣　多
ゝ　ゝ　ゝ　月　ま　ゝ　ゝ　ま　ま　車　庵
元　元　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　盛　水
一　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　杉　阿
か　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　独　渓

芭蕉ハ何藤の　芭蕉
冬木　川　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

冬月　舟会

貧　舟　つ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

支考　国分　文州　陽和　紀力　史邦　培茶　馬莧　仲之　作国　残音　芳臣　馬莧　国枕　惟然　盛永　北条　馬邦

四東　草士　車水　万平　麻巾　其角　正秀　萩子　薇頭　惟然　芭蕉　支考　土芳　尚白　松後　山蜂　利合

釋教

涅槃

涅槃像のうしろ表裏の図

沾圓

涅槃の会や鉢の会年〻教法の

芭蕉

山寺や樹ちりかゝる鉢の水

不撥

夷福の御をしへや浄土の縁

山一樹

薬師

薬師や法師ありける井戸の水

曲翠

薬師や御ゝうれて二ふり

不玉

薬師や釈迦八段分とし

之道

説教

説教あらうかなさ〻〻説教

尚白

赤道具のかゝやき説教

去来

山伏や物ゝをかく〻説教

沾圓

田氏の長津伝もこの水の

まとり潤はもとれ八四月

ゆりて法会をやとめむとて

家八ゝ各戒に寄〻誓の塞系

芭蕉

悼少年二句

かゝる〻を悼の墓もなき墓

惟然

その歌をまくらとなしハ秋の風

支考

経会の後ハ法華のすゝ〻ちの

本所

前の夜ハ法華のすゝ〻ちの

支梁

墓参や柄杓ゝる捕の水

沾圓

山伏修

柳ちりて柳もとうれたり山新緑

沾圓

俳八

鶯とまりて尼ハ池を汁

舞六

仏の前ハかのゆれりゝハ六角堂

如彩

新年

信濃の善光寺堂かしこ

長光寺地蔵菩薩の信

去来

信〻ゝ山ハ水もとみゝ〻ゝ長伝ハ

智月

ゆとゝ書きとゝ示さゝ〻ゝ仏の

乙孔

年〻ゝ岩ゝ岩ゝ〻ゝ仏立世

吉年

ゝ〻ゝ〻ゝ川越ゝ〻ゝ蔦七信

くまもうたれの名残しを名残惜
食まさる者ゆゆしき夕附百　支考　世俗

旅

送別

元禄七年の夏芭蕉翁の
別をしんぬて
麦ばたけ頃の二毛の別うら
別しを惜嘆今し坂の上　荷兮　物語
待六月雲雨ふるおりひ
旅人のくるる仰ぎ惜めり　芭蕉

留別

海の憂然り定より
古今なる時
草の中の草の草ばかりうつり
物はなるのかなしおくりしんとし　丈艾　芭蕉
早苗のみのなる時なる時
ゆく春の山四まかりて
くまうて別をしみうの者の移　庄帝
物語やくき世代めつる孫山　戎人
歩もるつひの惜や旅の名　如行
別の中あもむ時みち
のくのさくひをうそ

ふのくにハ俗地名ありて小倉旅　久羽
十四年ふ少しまりぬ秋の陸　野六
大名行帰るうも帰るうも旅ぶ　仝
ゆ海の時
ゆくしきも馬くく夏の金の旅　名良
蕎ハ出て蕎ハ出て蕎多時ぶ　振雄
時雨の八月ちくしの旅　戎陣
変つけて砂丘ぬつ一京の馬　史郭
田面のゆさも時く
いちの面のいろて
文学の前ひ月ハ秋陸一　呂丸
戎蕭金ハ行く旅の長さ　沾圃
寒鹿ふ時陸の山水行まて
やう求人をしたえ長ぶ
ゆくしく名をかくしたり凡ハ
一夜別時の野の月ぶまして　支考
旅よ寒ふ情や一物二山を　粥
神時や　長く別人ぶて元　仝
元禄七年の夏芭蕉の長
う武江おもむくそ時間の
澤海かもあるうて
宿ろうしく名をふのくすの時間　芭蕉

弘化二年乙巳五月

花鳥庵蕉雄為校

芭蕉略傳

芭蕉庵松尾氏八伊賀國柘植の住人也寛文
して通称を松尾半七といふ七歳の時
忠左衛門といふ名ハ宗房後に桃青と
号ス同郡上野の城士藤堂良忠と
仕へ良忠俳名を蝉吟と称し連吟の
門に切磋す終に良忠ハ寛文六年に
風雅に心を寄せ世を厭ふ心ありて宗房
悲歎に堪ひず遺骸を高野山
報恩院に収葬す安に悲しみの余り
世をいとふ心ありて若し官を辞さも
やまさんとせしかども其の年に
同僚伊賀の一の人に
乎と庵の友の中に
かれ一句を残し命を
都に出でうに志すこと本望を
伴に出でしに其のちこれを
六月晦日庵を出けひ芭蕉一句と成
侍ける

芭蕉庵にして蝉吟の
此冷尽きてけむ所成
きく人こも芭蕉翁と称しかるとも

[illegible]

花鳥庵蔵板

日本橋通壹丁目
須原屋茂兵衛

江戸

麹町四丁目
角丸屋甚助

浅艸福井町壹丁目
山崎屋清七

麹町十二丁目
三田屋喜八

吉林